REC TECHNICAL REPORT ISSN 0918 - 2861

No.0038 MAR. 2000

地域密着型大学づくりの方策に関する研究

●アメリカ高等教育の検証

Research on the Establishment of Region-based University
: Concepts from American Higher Education

川名 典人
Norihito KAWANA

スチュアート・ウォーカー
Stuart WALKER

横山 京子
Kyoko YOKOYAMA

SAPPORO INTERNATIONAL UNIVERSITY
札幌国際大学北海道環境文化研究センター
HOKKAIDO RESEARCH CENTER OF ENVIRONMENT AND CULTURE

地域密着型大学づくりの方策に関する研究

-アメリカ高等教育の検証-

Research on the Establishment of Region-based University: Concepts from American Higher Education

川名典人　　スチュアート・ウォーカー　　横山京子

Norihito KAWANA　　Stuart WALKER　　Kyoko YOKOYAMA

目次

はじめに

I　アメリカの大学教育システムの考察とそのアカウンタビリティ

II　American Higher Education : Non-traditional Academic Programs

III　アメリカ高等教育機関におけるStudent Servicesについて

はじめに

日本の高等教育機関では、18歳人口の減少と同一年齢の進学率50％を反映したユニバーサル化の波にさらされている。そのため、学生数確保のための魅力ある大学作り、学習意欲の低下に対応した教育の在り方、学習機会の多様化への対応、情報技術の進歩による新しい教育方法の導入、そして地域に対する大学の役割等の取り組みは最重要課題となっている。

これらの最重要課題の取り組みに関する研究を行うために、1999年春と1999年秋の2回にわたって7名の研究者がアメリカの大学を調査した。この報告書は1999年春に調査を行ったそのうちの3名の研究成果をまとめたものである。

I　アメリカの大学教育システムの考察とそのアカウンタビリティ
Considering American Higher Education System & Its Acountability

川名典人

要約

１９８０年代の１８歳人口激減に対してアメリカの高等教育機関は非常に積極的な手法でその難局を乗り切った。この研究では、はじめにアメリカ高等教育の歴史的流れを調べ、その後ケース・スタディから具体的な戦略を調査した。調査校はアリゾナ州のリベラル・アーツに実学を加えた私立のグランド・キャニオン大学、サテライト方式を導入した州立の北アリゾナ大学、そして社会人だけをターゲットにした私立のフェニックス大学である。最後にこのケース・スタディから学ぶべき教訓を考察した。

1　歴史から見たアメリカの大学教育

1-1　戦前までの大学

スペイン人がコロンブスのアメリカ大陸発見以後アメリカにおける初めての大学はハーバード大学であると言われている。ハーバードの創設は1636年であるから、アメリカ政府創設の1789年よりも150年以上古いことになる。それ以後の大学がハーバードの真似をしたと考えるとき、アメリカの大学と日本の大学の差異は大学と国家との関係に原点があるように思える。（中山、1994）植民地時代の大学は全部で15校で、今日まで存在するのは9校である。その中にはプリンストン、コロンビア、ペンシルベニア、ブラウン等今日一流と考えられる大学ばかりである。

独立革命時代（1763～1783）を経て、南北戦争（1861～1865）が始まるまでには241校の大学がが開校され、40校が閉校した（表1）。そして、南北戦争後は学生の増加ペースが急激に加速し、高等教育の大衆化が始まった(図1）。

戦前までのアメリカの大学の歴史において幾つかのユニークなモデルがあった。1番目は植民地時代からの伝統ある紳士教育、専門化しない一般教育のリベラル・アーツ・カレッジ。そして、2番目には南北戦争後に創設され発展した職業教育のための州立・土地付与大学。最後に研究のための大学院である（中山、1994）。

1-2　戦後の大学

戦後のアメリカの大学の拡張はその時代背景と密接な関係がある。1944年に応召軍人の社会復帰のためのGIビルと呼ばれる法案が可決し、復員兵の教育に多大な援助が行われた。兵役の長さにより、最長4年間の教育を受ける権利が与えられた。その間、授業料、その他の費用に年間500ドル支給された。さらに月に独身者50ドル、妻帯者75ドルの生活費も支給された。これにより、多くの復員兵が大学に押し寄せた。同じような現象が朝鮮戦争やベトナム戦争後に起きた。また、1957年10月4日、ソ連による人工衛星スプートニク打ち上げは政府に教育の必要性を実感させた。その結果教育に多大な資金がつぎ込まれた。

1960年代は大学の黄金時代であった。1946年のアメリカ全体の高等教育学生数は200万人台であったが、10年後には300万人台を越え、60年代は360万人台から800万人弱と、10年で2倍増となった。この数は青年層の40％以上がなんらかの形で高等教育の機会にあずかったことになる（中山、1994）。

高等教育の発展拡張は中流階級だけでなく、下級階級、底辺にまで広がった。そして新しい制度のパラダイムが生まれた。希望するものは誰でも高等教育が受けられるという考えである。この理念にそって作られたのが、コミュニティ・カレッジである。誰でも入学できる地域の2年制短期大学であるが、1990年代には全大学生の3分の1に達した。そこから4年制大学に進む学生が多く、カリフォルニアでは、州立大学の6割に達した。70年代にはコミュニティ・カレッジの機能が生涯教育、継続教育、リカレント教育という名の成人教育の方向に伸びていった。

1-3　大学の危機

戦後結婚ブーム、ベビー・ブームが生じ、その世代が大学に入る60年代から70年代の大学における学生数は増加の一途をたどったが、1981年をピークとして、１８歳から２４歳人口は減少を始めた（図2）。また、1981年に大統領に就任したロナルド・レーガンは戦略防衛構想には熱心であったが、知識人や大学・高等教育には冷淡であった。レーガン政権は大学への風当たりを強めた。高等教育への連邦政府の援助切り詰め（表２）、奨学金の削減などの政策を通して、連邦政府は高等教育を州政府に任せる方式に変更していった（中山、1994）。例えば、1980年レーガン政権前の高等教育の設備、ローン関係予算は＄268,493,000であったが、レーガン政権２期８年の間に$77,362,000まで激減した。その結果、大学は財政難に苦しみ、リベラル・アーツ系の人気のない科目は削減された。更に高等教育の高度成長を支えていた大卒者の受け皿である産業界は、グローバルな競争で他の先進国に遅れをとり、大量の大卒者を吸収できなくなった。産業界の雇用不安は年々深刻になった。此の様な経済環境は、失業率や最低賃金に関する統計に

も顕著に表れている。1980年前後の失業率は非常に高い。とくに1982年の9.7％は戦後一番高いものである(表３）。また、最低賃金も1981年から1989年まで一度も上昇していない(表４）。9年間も最低賃金が据え置かれたのは1955年から1997年の統計で初めてのことであった。このように戦後拡張一途をたどった高等教育は80年代に学生数の減少、レーガン政権による連邦高等教育予算の削減、そして雇用不安というトリプル要因でいまだ体験したことのない深刻な縮小計画に直面した。そして、多くの大学で混乱がおきた。

1-4　大学の生き残り戦略

「高等教育界に妖怪が徘徊している。【衰退】と【倒産】という妖怪が」これは1983年に出版されたアメリカの大学の【生残り】戦略について述べた有名な著書の中の【共産党宣言】をもじった冒頭の一節である（Keller)。1970年代末から1980年代初頭にかけて高等教育が直面する厳しい冬の時代の予想や警告が全米に飛び交った。1987年の連邦政府の統計は、18歳人口が1979年の431万人をピークとして減少に転じ、1995年には332万人まで減少すると述べた。それはピーク時の25％も低い数字である。この青年人口減少は、高等教育での学生数の減少、大学の収入の減少、大学破産、そして大学淘汰の時代という悪循環を予想させるものであった。

このような青年人口減少という統計予想から1970年代後半にはさまざまな学生在籍者数の予想が飛びかった(図3）。その中でクラーク・カーが主宰するカーネギー高等教育政策審議会は1983年から89年までの6年間に83年レベルより40％減少し、1989年から91年の安定期を経てから、1991から97年にかけて再び60％も減少する。そして2010年にやっと1980年時点のレベルに回復すると予測した（Cargegie Council)。また、同審議会は1980年代から1990年代半ばのアメリカ高等教育での変化を明暗２つの側面から予想した（喜多村、1997）。

悲観的予想

1　青年人口減と大卒雇用市場の悪化で、学生在籍者数は現状より40％～50％減少する。
2　公費財源の入手難とインフレ進行により、学費が高騰し、学生減に拍車をかける。
3　大学経営難と学生獲得競争激化により高等教育の質が低下する。
4　政府の規制介入が強まる。その結果高等教育機関の独自性や主導権が弱まる。
5　大学の管理運営は協調から競争と相互不信の方向に展開される。
6　電子革命の発達は大学の授業を陳腐化させる。

楽観的予想

1　在籍学生数はあまり低下しない。成人学生や留学生が減少分を補充する。
2　経済の活性化が学生援助を継続し、雇用状況も好転する。学生数は上昇する。
3　量的拡張の終息は大学に質の向上に取り組むことを可能にする。
4　学生は質の高い教育を求めて、よい大学や良い教育プログラムを選ぶ傾向が強まる。
5　政府は高等教育への内部介入には自制力を発揮する。
6　私学は強靭な力があり政府の援助にも助けられており、潰れるのは弱小な大学だけである。
7　新しいテクノロジーは古い教育方法の補充となるが、従来の大学教育に全面的にとって代わることはない。
8　アメリカは全体として新しい活力を回復し、上昇の波に乗る。高等教育はその中心的存在として貢献する。

1980年代のアメリカの高等教育に関する予想の結果はどのようなものであったか。悲観的予想と楽観的予想のどちらが現実となったであろうか。いろいろな資料統計から次の結果が明らかになった（喜多村、1997）。

1　1979年のピーク時の高卒者数と比べて1985年の高卒者数はおよそ50万人ぐらい減少した。しかし全米

の大学・短大の在学学生数は、全体として1979年から1985年にかけて約60万人近く増加した。
2　高等教育機関の数も1979年の3152校から1985年の3340校と約200校近く増えた。
3　80年代に200校に上る閉校が出ると予想されたが、実際に閉校した数は非常に少なかった。連邦政府の統計によると、60年代は77校、70年代153校が閉校となったが、80年代は閉校数が増えるどころか、大幅に減少した。80年から85年までの5年間で僅か26校であった（NCES)。

以上の結果は何を意味するのであろうか。【大学倒産時代到来】という多くの専門家の予想を裏切ったものは何であったか。統計的資料やHamlin & Hungerfordによる全米私立大学１２６校の調査などから次のようなことが明らかになる（喜多村、1997）。

1　危機意識を持った大学側の積極的な攻めの戦略

これは、各大学が地域固有の高等教育の需要に合わせた戦略を立て、果敢にそれを実行したことを意味する。伝統的な学生を顧客とするリベラルアーツ・カレッジの多くは、教養大学から実業大学へ変身した。ブラッドフォード・カレッジはその典型である。建学の精神を見直し、教養教育から職業教育、成人教育用の課程に変更したり、教養教育と併設して、市場の要求に適応する自己改革を行った。実学のための教養教育（practical liberal arts education）という、一般教養と実学の調和的結合をめざした。その結果わずか五年間でカレッジは蘇った（喜多村、1997）。

また、非伝統型学生層（主として成人、パートタイム学生）を受け入れ、彼等の必要性や都合に適合した改革や条件作りをして新市場開拓をした。その結果１９８０年代後半から３０歳以上の人が大量に大学で学んだ（図４）。しかし、これらの非伝統型学生層を受け入れるためには、託児所を建てたり学習指導や生活面のカウンセリング・センターを設けたり、夜１０時までの開講時間を組んだり、図書館を２４時間開放したりしなければならなかった。積極的な大学の取り組みがなければどれも実現不可能であった。

2　女子の大学進学率の上昇

女子の大学進学率は１９７０年代後半に男子の大学進学率を上回った（図５）。また、マイノリティ・グループや留学生も増加した。これにより高卒者減少分は補完された。これら男子以外のグループの進学率の上昇の背景には、大学側の魅力あるカリキュラムの提供とともに、産業がより高度に専門化し、その業務を行う人材が大量に必要になってきたからである。特にコンピューター関連の産業が１９８０年代後半発展すると、その傾向はいっそう強まった。

3　科学技術の発達による教育方法の多様化による学生確保

伝統的な大学教育方式は、学生が大学で講義を受けるものである。通信教育という部門もあるが、大学の教育の主流にはならなかった。しかし、科学技術の進歩とともに、多様な教育方式が可能になった。大学・短大崩壊という危機意識の中で、高等教育機関は積極的にあらゆる教育方法で学生確保を試みた。特に１９８０年後半からの急速なコンピューター（表５）の普及にともない遠距離教育（long distance education）は急速に拡大した。例えば、フェニックス大学は１９７６年に設立された社会人だけを対象とする大学であるが、全学生数68,000人のうち約9,500人は遠距離教育を受けている。

結果としてカーネギー高等教育政策審議会の楽観的予想が適中したが、アメリカの大学・短大が１９８０年代を生き残った理由は、外的要因よりも大学・短大の積極的且つ大胆な自己改革という内的要因が占める割合が大きいと思われる。ビジネスという観点から学生確保戦略を立て、潜在需要予測技術を導入したり、マーケティング法やリクルーティング技法を洗練化して、顧客である学生の需要を掘り起こしたのである（喜多村、1997）。その結果、非伝統型という新しい分野で学生を大量に確保した。しかし、商品を買っても、顧客が満足できるものでなければその商品はすぐに需要がなくなる。同じようにいくら大学・短大が魅力ある講座、施設、環境を提供しても、最後に学生が判断する材料は、その講座を受けて本当に付加価値がつくかである。短大に実学のための教養教育を導入して、短期間にブラッドフォード・カレッジを蘇らせ

たレヴィン学長は「大学の一番大切な機能は教育であり、教育課程を強くすることが最良の生残り策だ」と言った（喜多村、1997）。今日アメリカの大学が１８歳から高齢の社会人まで、そして多くの留学生に支持されている背景には、レヴィン学長の語った「教育の質を落とさない」というアメリカの高等教育機関の教育の質を追求する姿勢と努力の結果であると思われる。

2　ケース・スタディ

アリゾナ州における大学教育の取り組み

アメリカで６番目に広い土地を持つアリゾナ州はアメリカでもっとも注目を浴びている州の１つである。年中暖かく、雨の少ない気候で、カリフォルニア州に隣接する環境は、多くの企業や人にとって魅力的な州である。１９８２年から１９９２年までの統計では、人口伸び率、非農業所得伸び率ともにアメリカ全州の中で第２位である。このアリゾナ州の中から、州立大学１校、リベラル・アーツ系私立大学１校、そして成人だけを対象とし、遠距離通信教育に力をいれている私立大学１校を選び、１９８０年代の大学の冬の時代をいかにして切り抜けてきたかを検証する。

2－1　グランド・キャニオン大学

グランド・キャニオン大学は1949年に約１００名の学生と１６名の教員によって開校されたキリスト教を母体とするリベラル・アーツの私立大学である。1979年の１８歳人口がピークの年に1,147名だった学生数が１９９8年には2,245名に増加した(Peterson's)。1997-1998年にはGuide to America's 100 Best College Buysで選ばれ、1998年のThe U.S. News & World Report のAmerica's Best CollegesではTop 5 Honors for "Getting Your Money's Worth"に選ばれている。この大学が力を入れているものは、大学のカタログに記載されている「大学の目的」の部分で明らかになっている。

大学の目的

キリスト教に基づくリベラル・アーツの私立高等教育機関であるグランド・キャニオン大学は学生主体の大学である。主導性、職業技術そして交流技術を高めることを目標にしている。そのために教養科学を中心とした伝統的なプログラムの他に、革新的なプログラムも提供する。

つまり、この大学が目指したものはブラッドフォード・カレッジが目指した実学のための教養教育（practical liberal arts education）と同じものである。また、大学のカタログは顧客である学生の確保と大学の質を維持するという難しい課題にどのように取り組んでいるかを明らかにしている。その特徴のいくつかを下記に記載した。

1　SOAR Program (Student Orientation And Registration Program)

新しくこの大学に入学を希望する学生がこのプログラムに参加できる。学生は大学生活、学費援助、そして学業のアドバイスが受けられる。また、このプログラムで自分の入学を希望する学期の事前登録ができる。特別入学許可の学生は全員このSOARプログラムを受講しなければならない。

2　早期入学制度

通常の入学の他に早期入学制度がある。高校に在学しているが、成績が非常に優秀な学生は大学の授業を

受けられる制度である。そのためには高校の校長または指導員の許可が必要である。この制度を利用すると高校の夏休みに大学で科目の単位を取り、大学に入学した時にその単位が移行される。

3　編入、再入学制度

最低２４単位を取得していて、GPAが2.00以上の学生が対象となる。この基準に満たない学生は新入生と同じ扱いになる。だだし、ビジネス、教育、看護学の学部はGPAが通常より高い。

4　特別入学制度

一般入学基準を満たしていない学生に対して適応される。条件は、推薦状と学歴書の提出、そして学業目的を含めた学生の理解を深めるための面接である。この制度で入学した学生は、大学での学業を成功させるために個別学習プログラムを受講しなければならない。また、履修上の制約もうける。具体的には、最初の学期は１２単位以上の科目は履修できない。定期的にアドバイザーと会い、改善が必要と考えられる部分の能力を強化するための個別科目を受ける必要がある。最初の学期の学業結果がGPA2.00以上であれば、特別入学身分は解除される。しかし、２学期の間特別入学の身分が解除されなければその学生は退学しなければならない。

5　直接編入制度

コミュニティ・カレッジの編入プログラム科を卒業した学生は、６単位のキリスト教研究以外の基礎科目を全て修了したとみなす。しかし、編入プログラム科の中には最低６単位の大学英作文の科目が含まれていなければならない。さらに、編入学を希望する学生は大学の小論文能力テストの基準を満たしていなければならない。

6　小論文能力テスト（Writing Proficiency Examination）

大学は学生の基礎能力達成度を重要視している。そのために、全ての学生はクラス登録をする前にこの小論文能力テストを受けなければならない。その結果と高校でのACTまたはSATテストの点数で大学での小論文クラスのレベルが決まる。

7　EASEプログラム（English Adjustment Skills & Experience）

このプログラムは英語能力テストTOEFLで５００点に達していない留学生を対象にしたものである。このプログラムを一定のレベルで修了した学生はTOEFLが免除され、正規の留学生となれる。このEASEプログラムはレベルがステップ１からステップ８まであり、全てのステップを修了しなければならない。

8　学生への教育費支援制度

アメリカは寄付という概念が非常に強い国である。それは税制面の寄付金に対する優遇処置にもあらわれている。そのため大学における奨学金は非常に多い。グランド・キャニオン大学はキリスト教を母体とした大学なので特にその数は多い。また、アメリカでは奨学金を利用して学生の学業に対するやる気を促す仕組みが確立されている。グランド・キャニオン大学で特にこの傾向が強い奨学金制度は、例えばAcademic Scholarships Continuing Students Grand Canyon University Honorsがある。条件は正規の学生で２学期連続してGPA3.5以上である。授業料の２０％が支給される。また、Freshmen Students Scholars 100では、GPA4.00の高校の成績がある学生が対象で、100%授業料が免除になる。Top Five AcademicやTop Ten Academicは高校のクラスで上位5%または10%のグループに入った学生に対して支給される。更に編入学生に対しても奨学金制度がある。Transfer Students Transfer Honors Scholarshipsでは最低２４単

位以上を移行した学生が対象で、GPAが3.50以上なければならない。20%の授業料が免除となる。
大学としてのこのような奨学金制度がグランド・キャニオン大学では１３ある。更に、企業関係の奨学金制度は９つ、ROTC Scholarshipsのような軍関係の奨学金制度が１つ、先住民族であるアメリカ・インディアンに対して２つある。最後に個人による奨学金制度もこの大学では充実しており、７４種類にものぼる。個人奨学金制度では条件もかなり緩和されており、GPA2.00である。
このように充実した奨学金制度の他に、学生は財政支援の必要性により多様な補助金制度や学生ローン制度を利用できる。また、この大学ではお金だけでなくキャンパスでの学生の雇用を通して学生支援を積極的に行っている。

９　学生中心の履修制度

１）合理的な単位設定

科目には100から699までの番号が付いている。100-299は１、２年生の科目で300-499は３、４年生の科目である。500以上が大学院生の科目となっている。また、各学年で取得すべき単位数は、１年生30単位、２年生30~59単位、３年生60~89単位４年生は最低９０単位以上である。単位の設定が明確なので必要な単位数を４年間在籍せずに修了する学生は卒業時期を早めることができる。

２）代替単位認定制度

１つには通常の講義による単位取得の他に、読書と担当教員との学力確認面接によって単位を取得できる制度がある。この制度を利用したい学生は学部長や学科長の承認が必要であり、２科目が上限である。また、最高３０単位までは、試験、公開講座、通信教育によって取得できる制度もある。ただし、通信教育の上限は１２単位である。事前登録と事務局の承認が必要である。

３）　成績の不服申請

成績が不当と考える学生は一定の手続きに従って、その主旨を訴えることができる。

１０　学業奨励賞

アメリカの教育では一生懸命努力をして結果を出した学生に対してはいろいろな方法でその学生を奨励する。奨学金制度もその一つであるが、成績優秀な学生を教員、学生、職員、そして家族を一堂に集めて発表し、その努力をほめたたえる制度は日本の大学にはあまり見られない。グランド・キャニオン大学でも８つもの賞を通して成績優秀な学生を奨励している。たとえば、Graduation With Honorsでは、卒業時に、最低６０単位をグランド・キャニオン大学で取得した学生を対象に、GPAのレベルで次のような賞を与えている。
3.40~3.59 は cum laude
3.60~3.79 は magna cum laude
3.80~4.00 は summa cum laude

１１　少人数制のクラス運営

６９％が２０人以下クラス。２９％が２０人～５０人のクラスサイズ。２％が５０人以上のクラスサイズとなっている。

このようにグランド・キャニオン大学は典型的な小規模のレベラル・アーツの大学であるが、いろいろな対策を用いて１９８０年代の大学の冬の時代を乗り切ってきたことが理解できる。

２－２　北アリゾナ大学（NAU）

北アリゾナ大学はアリゾナ州にある３つの州立大学で一番北に位置する学生数が一番少ない大学である。しかしながら、全州プログラム（statewide programs）というユニークな教育方式で積極的な教育活動をしている州立大学である。マーティン・ロザノは教育心理学を全州プログラムで学んでいるが、次のようなコメントを述べた。「NAU-Yumaではフルタイムで働いている人のためのカリキュラムが用意されている。いろいろな環境の人がこのプログラムに参加しているが、NAU-Yumaプログラムがなければ、学位を取得することはだれにも不可能だ。なぜなら、ほとんどの人はNAUのキャンパスは遠すぎて通うことができないからだ」

このような学習意欲のある人のために１９８７年にNAUはアリゾナ州全域に分校を設立した。その結果、１９７９年の学生数が１２、７５０人だったのが、１９８０年代後半にこのプログラムが導入されてからは、１９９０年に１６、９９４人、そして１９９８年には１９、６１８名に増加した（図６）。そのうちこの全州プログラムに参加している学生数は約５、０００人に達した。ここではこの全州プログラムに関して調査した。

全州プログラム(statewide programs)

全州プログラムはNAUキャンパスで講義を受講できない学生のためにアリゾナ州の主要な地区に分校を開き、そこで学生に講義を提供して学位を与える制度である。オンラインやテレビなどの通信技術も教育に取り入れ、NAUとの教育レベル格差を排除している。

１）地域

アリゾナ州を５ブロックで区割りし、主に短大と提携して授業展開している。

北西ブロック：五ケ所　南西ブロック：３ケ所　北ブロック：１１ケ所
中央ブロック：７ケ所　南ブロック：６ケ所

２）授業形態

a　相互送受信テレビコース

このコースは全てテレビ、ケーブル、マイクロウエーブ、衛生回線によって提供される（写真１）。このコースでは設備が完備した専用の教室で講義が行われ、各ブロックの教室で同時に授業を受けられる。質疑応答も可能である。このクラスでは学生の声や授業参加が写し出されるので、コースを履修する時のそれに対して学生が同意しなければならない。

b　地域授業

各ブロックで提供する講義を受けて単位を取る方法である。各地区には地域コーディネーター、支援スタッフ、そしてアドバイザーがおり、学生の対応や学校管理運営を行う。教室はその地区のセンターと提携短大を利用する。現在提携している短大は１１校である。

c　サテライト・コース

NAUは全米に独自のサテライト放送を持っており、それを通して個人、会社、団体に特定のコースを提供する。このコースを希望する人は、受信に必要な器材を準備しなければならない。録画された相互受信テレビコース授業が放映される。講師への質問はＥメールにより行われる。宿題はコンピューターによって提出される。試験センターが設置されており、コースによっては試験センターで受講する必要がある。

d　ウエッブ・コース

web-based, web-cast, そしてweb-enhancedと呼ばれるコースがある。web-basedコースでは、学生は大学のサイトにアクセスして講議を受け、宿題を得て、それを完成しホームページのサイトに提出する。web-castコースでは、教室ですでに行われた授業をサイトで見る。web-enhancedコースでは、コース教材やオンラインで提供された作業を通して通常の教室で個別に受ける授業である。各コースは６週間の期間で修了するプログラムとなっている。

３）　支援体制

学生に対して多様なサービスが提供されている。特にコンピューターに関するサポートは際立っている。学生はDanaと呼ぶサーバを利用して、メールアカウントを持つだけでなく、自分のホームページが作成できる。また、インターネット・チャットも可能である。
これらの使用法は全てNAUのホームページから学習できるようになっている。

４）カリキュラム

全州プログラムの対象は３年、４年そして大学院コースである。学生は１、２年を提携校の短大で修了し、その後NAUに編入する。授業はNAUに行かないで地元の提携短大で受ける。卒業するとNAU卒になる。

この全州プログラムはアリゾナ理事会の「アリゾナ全域に大学教育を行う」という決定に基づいて実施されたものである。1989年から1998年までのネット構築費用は合計で$8,263,883になるが（図７）、学生の四分の一はこのプログラムを利用していることを考慮に入れると、非常に成功したプロジェクトだったといえる。

２－３　フェニックス大学

フェニックス大学は１９７６年に設立された私立大学である。この大学が注目されているのは伝統的な大学の概念をこえたアプローチをしているからである。そしてその考えは多くの人に支持されている。それは学生数の急激な増加にあらわれている。最初ホテルの部屋を借りて授業をしたこの大学は、1990年には8,206人、1992年に13,566人、そして現在6,800人以上の学生が学んでいる。この大学の何が社会のニーズを満たしたのであろうか。その答えはこの大学の教育システムを調べることで明らかになった。

１）プログラム

学士課程と修士課程、そして資格プログラムがある。その内容は仕事を持った人が必要とする継続教育プログラムである。また、社会人を対象とするので、講議の時間は昼間よりも夜間や週末に多い。講議を行う場所は職場に隣接している。

２）対象

仕事、またはそれに匹敵するものを持った人で２３歳以上の社会人である。

３）教育方法

通学教育とオンライン教育がある。通学教育を実施する所は全米１５州とプエリト・リコ、ブリティシュ・コロンビアを含む８５ケ所のキャンパスとセンターである。オンライン教育では、現在約9,500人の

学生が利用しており、その平均年令は３８歳である。２０％は会社の役員か社長であり、３０％は会社のマネージャークラス、そして４４％は技術専門職の人である。オンラインでビジネス管理の修士課程を修了するのに、約３年かかり、費用は通常の授業料と同じ＄17,000～＄20,000である。
社会人は短期間に集中して学習すると一番効果があるという統計に基づき、５週間から８週間の集中講議で１科目しか一度に受講できない。

4）規約

毎月いつでも入学ができる。ほとんどのクラスは週４時間か、週末だけの１５時間である。２回以上の欠席は退学を意味する。授業料は受講する科目ごとに支払い、１学期分を前納する必要がない。

5）プライヤ・ラーニング・アセスメント（Prior Learning Assessment）

これは本来単位移行ができないコース、ライセンス、資格、そして個人的専門的経験から、大学レベルの学習だと認定する知識と資格は単位として認める制度である。この制度は、「社会人は大学で得たものよりも他の所で経験することにより多く学習し、それは大学の内容と匹敵する結果をもたらす」という考えに基づいている。経験型コースや能力達成型コースでは最高３０単位まで、そして専門訓練型でも３０単位まで認可する。例えば外国語が得意な人は、語学能力の認定を受ければ、低いレベルを１２単位、上級レベル６単位まで取得できる。対象となる経験があるかどうかを調べるためのチェックリストが用意されている（表６）。

6）戦略パートナーシップ

企業や団体とタイアップした学習制度である。企業や団体の従業員を対象としたプログラムで、受講者はその企業や団体を会場にするか、オンラインで講議をうける。また、企業や団体が独自のトレーニング・プログラムを持っていて、一定の基準を満たせばそのプログラムは単位認定プログラムとなる。

上記で述べた教育システムから理解できることは、フェニックス大学成功のカギはターゲットを社会人だけにしぼり、徹底して社会人のニーズに基づいたカリキュラムを作成したところにある。産業革命以来の大きな変革を受けている情報社会では専門知識が不可欠である。仕事を続けながら時や場所の制約を受けない教育を与えるフェニックス大学のシステムはまさに社会が求めるものと一致している。

3　アメリカ高等教育機関に学ぶべき教訓

ケース・スタディで調査した３校の大学では、学生確保のアプローチに違いはあるが、共通している点が２つある。１つは徹底して顧客である学生のニーズに合ったプログラム、環境を提供していることである。グランド・キャニオン大学では伝統的なリベラル・アーツ教育から実学のための教養教育へとシフトしている。総合大学である北アリゾナ大学はどのような学生のニーズにでも対応できるが、フェニックス大学のように１９７６年設立の小規模私立大学は、他の大学にない教育システムが必要であった。その結果採用された戦略は、社会人だけ対象で、社会で必要な知識、技術を学ぶプログラムの提供であった。
ハードの面で学生のニーズを満たすために北アリゾナ大学は、州全域にサテライト校を主に短大と提携して開校した。さらにオンラインや相互送受信テレビも利用できる施設を整備した。その結果、アリゾナ州では、誰でも、どこからでも北アリゾナ大学の講議を受けることが可能になったのである。フェニックス大学は、さらにこのサテライト校の考えを押し進め、全米にサテライト校を開校した。更に戦略パートナーシップという制度を導入し、企業や団体をサテライト校にした。
また、フェニックス大学は職場で取得した知識や資格を単位として認定する制度を設けている。そして、この大学では毎月入学できるので、社会人は時間を無駄にすることがないのである。履修科目も１回に１科目しか登録できない仕組みで、それを５週間から８週間かけて集中して終わらせるのである。忙しい社会人

にとってどんな学習環境が必要か十分考えられた戦略である。

２番目に共通している点は大学教育の質の維持である。学生確保と質の維持は非常に両立することが難しい問題である。しかしこの点に関しては３校とも毅然とした姿勢で対応している。例えば留学生の英語の能力条件では、グランド・キャニオン大学と北アリゾナ大学ではTOEFLスコア５００以上、フェニックス大学では５８０以上である。１科目に対する学習量も決められており、その量をこなさなければ単位が取得できない仕組みになっている。フェニックス大学のコース紹介では、大学は社会人のために柔軟性のあるカリキュラムを提供しているが、１つの科目に１５時間から２０時間の学習が毎週必要であると述べている。また、この大学では２回欠席すると学生は退学になる。グランド・キャニオン大学は少人数制による教育で質の高い教育を実現している。

アメリカの高等教育機関から学ぶべき教訓はまさにこれら２点に集約される。つまり、徹底した学生のニーズに合わせた質の高い教育とその維持である。学生のニーズの把握はビジネスのマーケティング手法も導入して徹底的に調査されるべきである。カリキュラムの設定、合理的な履修環境、施設等の整備をどのようにするかは非常に重要な検討課題である。

質の高い教育とそれを維持するためには、大学の規約や制度などの整備が必要であるが、教員の一致団結した「質の高い教育を目指す」心構えも同じように重要である。アメリカの大学はこの点が非常に優れている。例えば、どのコースを受講しても必要とされる学習量が同じである。日本の大学のように、教員によって宿題の頻度、密度がまちまちなことはない。アメリカの大学では宿題を出さなければ、学生はなぜ出さないのか質問する。内容に乏しい講義をすると、学生は支払った授業料を戻すように大学を訴えるのである。チェック機能が確立された競争社会、そして訴訟社会のアメリカでは、大学の教員はより良い教育を目指さなければならない環境にさらされているのである。

日本の大学とアメリカの大学の環境はかなり違うが、実現可能なものから実施する必要がある。例えば宿題の分量、１科目に対し必要な学習量の設定、成績評価の基準などはすぐにでも取り組める。日本の大学はモラトリアム化した学生が多いが、勉強をしなければ卒業できない環境を教員全員で作れば学生は努力をし、４年後には目に見えない付加価値をつけて卒業するはずである。その付加価値とは、一生懸命努力したことにより得られる知識と自分に対する自信にほかならない。

引用文献一覧

喜多村和之「大学淘汰の時代」中公新書、１９９７年
中山茂「大学とアメリカ社会」朝日選書、１９９４年

Carnegie Council on Policy Studies in Higher Education : *Three Thousand Futures.* Jossey Bass, 1975.
Keller, George : *The Academic Strategy – The management Revolution in American Higher Education.* Johns Hopkins University, 1983.
NCES(National Center for Education Statistics) : *the Conditions of Education,* 1980 Edition, 1980
Joan Hunter : *Peterson's Annual Guide to Undergraduate Study 1981 edition,* Peterson 1981

参考文献・参考資料

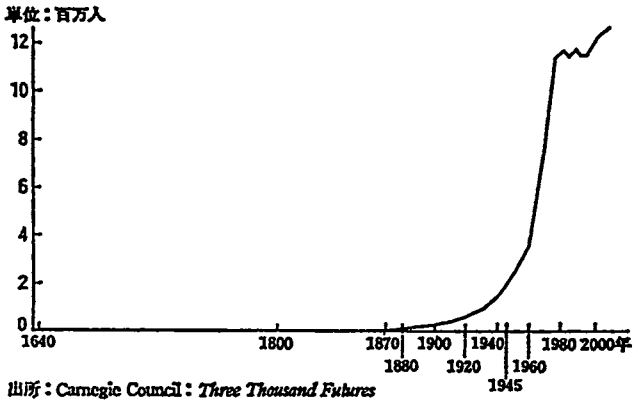
デレックC・ボック「ハーバード大学の戦略」玉川大学、１９８９年
レオナード・フリードマン「開かれた大学戦略」PHP研究所、１９９５年

Altbach, G. Philip, Berdahl,O. Robert, Gumport, J. Patricia : *American Higher Education in the Twenty-firsst Century,* The johns Hopkins University Press, 1999
Brunner, Borgna : *The Time Almanac 2000.* Information Please, 1999
Budig, A. Gene: *A Higher Education Map For The 1990s.* Macmillan Publishing Co., 1992
Gilley, W.J: *Thinking About American Higher Education.* Macmillan Publishing Co., 1991
Grand Canyon University :Catalog 1999-2001. 1999
Lerner, M. Richard, Simon, K. Lou Anna: *University-Community Collaborations for the Twenty-First Century.* Garland Publishing, INC., 1998
Northern Arizona University: *1997-99 Undergraduate Catalog.* 1997
The boyer Commission on Educating Undergraduates in the Research University : *Reinventing Undergraduate Education.: A Blueprint for America's Research Universities.* Carnegie Foudation, 1998
The University of Phoenix : *University Catalog,* The university of Phoenix, 2000
VanDyke, Patt : *Keeping the promise.* American Association of State Colleges & Universities,1991

参考資料

図1

アメリカ高等教育人口の増加傾向—1640年から2010年



出所：Carnegie Council：*Three Thousand Futures*

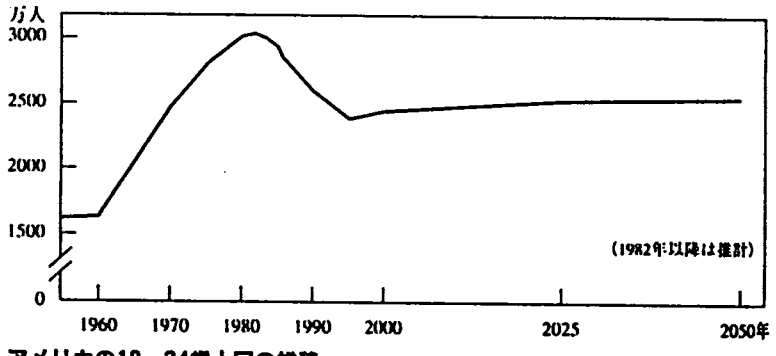
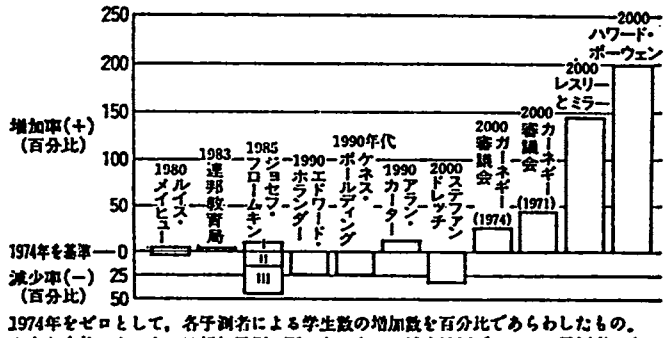


図2　アメリカの18～24歳人口の推移　　出所：*1984-85 Fact Book on Higher Education*

図3　アメリカ高等教育人口(学生層)の増加予測(百分比による比較)



1974年をゼロとして，各予測者による学生数の増加数を百分比であらわしたもの。0より上位にあるものは増加予測，下にあるものは減少予測で，いかに予測者によって見通しが異なるかがわかる。出所：Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching：*More than Survival* (1975) p.41

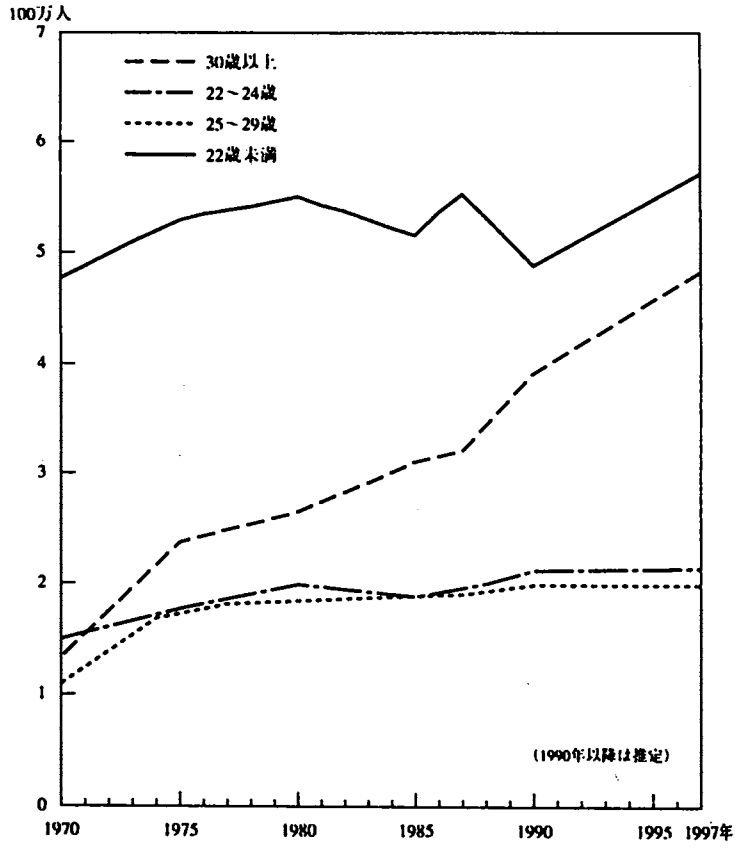


図4　高等教育機関における年齢別学生数の推移　出所：*Digest of Education Statistics, 1992.*

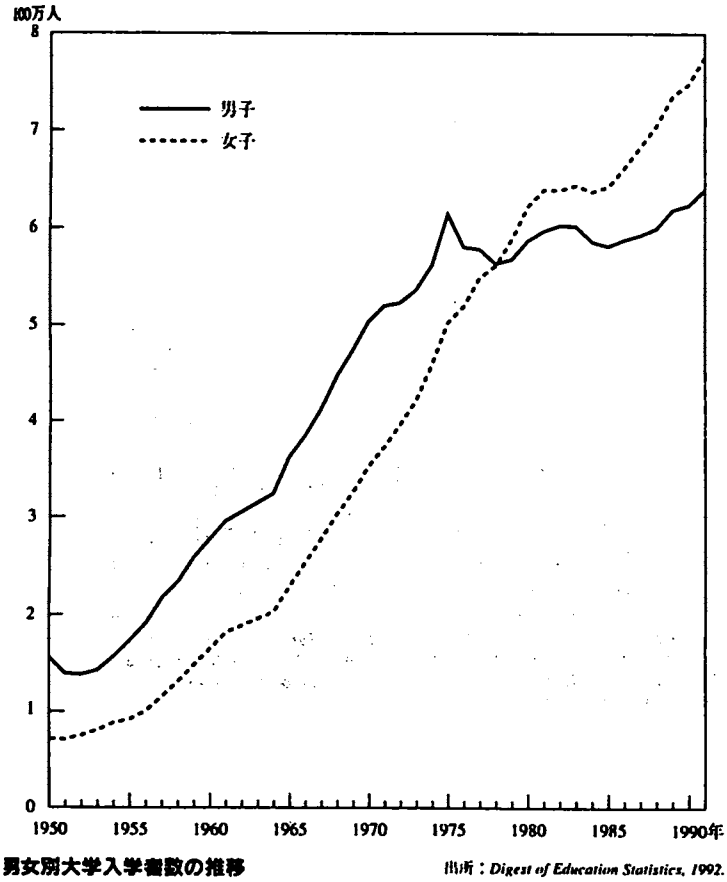


図5　男女別大学入学者数の推移　出所：*Digest of Education Statistics, 1992.*

図6　北アリゾナ大学入学者数

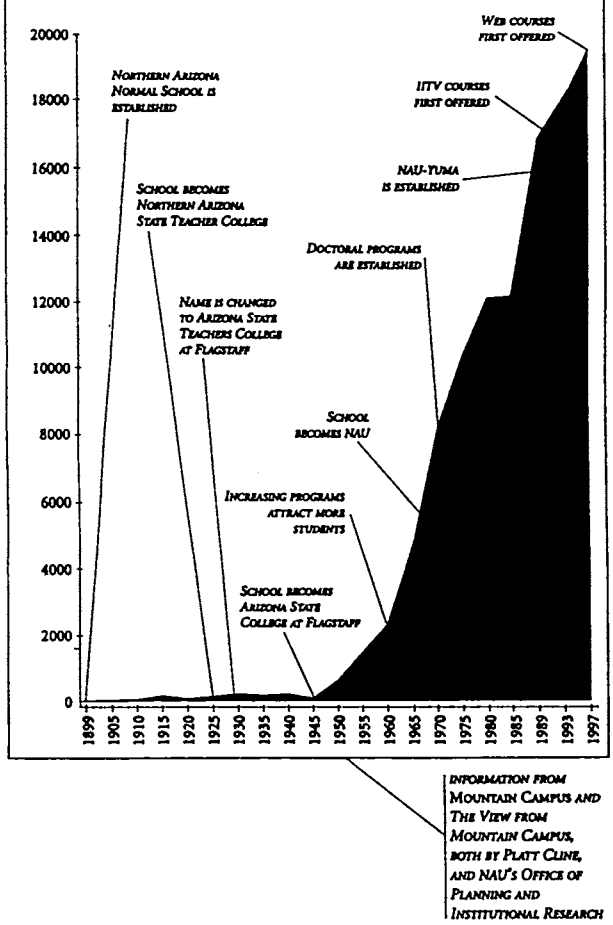


表1　パークによるアメリカ32州における南北戦争以前の大学の開校・閉校状況

州　　名	1800～1860 開校	1800～1860 閉校	閉校率(%) 1800～1860
アラバマ	6	1	17
カリフォルニア	3	0	0
コネティカット	3	0	0
デラウェアー	2	0	0
ワシントン特別区	3	0	0
ジョージア	5	1	20
イリノイ	14	1	7
インディアナ	12	2	17
アイオワ	9	1	11
ケンタッキー	14	7	50
ルイジアナ	11	4	36
メイン	2	0	0
メリーランド	9	3	33
マサチューセッツ	5	0	0
ミシガン	6	2	33
ミネソタ	1	0	0
ミシシッピ	7	1	14
ミズーリ	13	3	23
ニューハンプシャー	1	0	0
ニュージャージー	3	0	0
ニューヨーク	14	1	7
ノースキャロライナ	4	0	0
オハイオ	27	4	15
オレゴン	2	0	0
ペンシルヴェニア	19	5	26
ロードアイランド	1	0	0
サウスキャロライナ	6	1	17
テネシー	15	1	7
テキサス	5	1	20
ヴァーモント	3	0	0
ヴァージニア	11	1	9
ウィスコンシン	5	0	0
32　州	241	40	17

Colin B. Burke: *American Collegiate Populations; A Test of the Traditional View*, New York University Press, 1982, p.715-17.

表2 Federal Funds for Education, 1980-1991

Source: U.S. Office of Management and Budget

Federal funds obligated for programs administered by the Department of Education: Fiscal years 1980 to 1990
(In thousands of dollars)

	1980	1984	1988	1989	1990	1991[1]
Total	$14,102,165	$17,072,698	$20,697,311	$24,473,634	$25,214,853	$29,301,023
Elementary and secondary education	4,239,022	4,294,269	5,682,997	5,897,160	7,169,693	8,110,886
Grants for the disadvantaged	3,204,864	3,501,383	4,357,970	4,600,444	5,383,960	6,226,814
Special programs	788,916	549,117	1,067,213	1,129,444	1,524,001	1,610,678
Bilingual education	169,540	173,051	191,470	196,309	188,152	198,014
Indian education	75,900	70,718	66,344	70,963	73,580	75,380
School assistance in federally affected areas	812,873	608,791	731,241	731,768	815,573	808,286
Maintenance and operations	690,000	555,300	685,496	706,396	717,354	740,708
Construction	110,873	28,491	35,640	18,400	22,929	43,725
Disaster assistance	12,000	25,000	10,103	4,972	75,290	23,853
Education for the handicapped	1,555,253	2,416,799	3,075,456	3,814,846	3,480,122	5,091,091
State grant programs	815,805	1,082,180	1,115,333	1,642,847	1,258,871	2,407,086
Early childhood education[2]	38,745	53,164	210,752	319,012	280,341	612,914
Special centers, projects, and research	55,075	54,871	78,800	102,141	72,966	94,343
Captioned films and media services	17,778	14,000	13,026	13,346	15,191	16,424
Personnel training	55,375	55,540	66,153	67,023	70,838	69,289
Handicapped rehabilitation Service and research	572,475	1,157,044	1,591,592	1,670,677	1,761,915	1,891,035
Vocational education and adult programs	1,153,743	964,320	1,000,055	1,052,470	1,138,674	1,317,000
Basic programs[3]	744,653	669,324	823,299	859,239	858,716	969,634
Consumer and homemaking	63,169	36,792	32,752	32,818	34,517	33,352
Program improvement and supportive services	162,512	117,249	—	—	—	—
State planning and advisory councils	13,423	11,200	7,681	7,945	7,923	9,128
Adult education, grants to States	153,724	99,755	129,183	139,771	168,290	268,903
Other	16,262	—	7,140	12,699	49,238	135,983
Postsecondary student financial assistance	5,106,534	7,478,401	8,807,929	11,482,808	11,112,068	12,185,673
Educational opportunity grants[4]	2,534378	3,565,209	4,620,133	5,379,725	4,919,264	6,154,896
Work-study	598,065	561,322	604,445	620,844	615,269	598,574
Direct student loans	322,749	191,962	216,963	202,904	157,415	173,569
Guaranteed student loans	1,597,877	3,130,939	3,297,305	5,203,843	5,341,039	5,164,932
Other student assistance programs	57,465	28,969	69,063	75,492	79,081	93,882
Direct aid to postsecondary institutions	277,068	311,221	341,063	398,316	341,634	433,300
Aid to minority and developing institutions	114,660	132,081	135,222	179,062	99,812	99,542
Special programs for the disadvantaged	147,389	164,740	205,841	219,256	241,822	333,758
Cooperative education	14,999	14,400	—	—	—	—
Higher education facilities	268,493	216,893	162,528	77,362	84,035	107,391
Construction loans and insurance	35,362	54,105	89,820	37,109	30,000	29,277
Interest subsidy grants	24,826	23,925	24,466	22,524	38,471	43,064
College housing loans	208,505	138,863	48,242	17,729	15,564	35,050
Other higher education programs	34,927	82,410	79,305	73,574	168,999	225,803
International education and foreign languages	19,977	30,800	—	—	86,337	92,224
Fund for Improvement of Postsecondary Education	12,000	11,710	65,813	67,236	99,450	120,009
Other	2,950	39,900	13,492	6,338	3,212	13,370
Public Library services	101,218	107,895	135,731	141,884	132,583	155,682
Public Library services	66,451	65,000	78,922	80,944	82,505	83,898
Interlibrary cooperation	—	11,520	16,395	18,826	19,551	19,908
Public Library construction	—	21,015	23,577	27,289	14,837	32,002
Research Libraries	5,992	6,000	5,744	5,675	8,593	6,831
Other	28,775	880	9,093	9,150	9,097	13,043
Payments to special institutions	273,860	249,610	271,658	284,056	292,736	311,301
American Printing House for the Blind	4,349	5,000	5,266	5,335	5,663	8,136
National Technical Institute for the Deaf	19,799	28,000	31,594	33,326	35,594	37,888
Gallaudet College	49,409	56,288	62,195	65,996	67,843	72,262
Howard University	200,303	160,322	172,603	179,397	183,836	195,215

(continued)

表3

Unemployment Rate in the Civilian Labor Force

Year	Rate	Year	Rate	Year	Rate	Year	Rate	Year	Rate	Year	Rate
1920	5.2%	1948	3.8%	1970	4.9%	1989	5.3%	Feb.	4.6%	1999	
1928	4.2	1950	5.3	1972	5.6	1990	5.6	March	4.7	Jan.	4.3%
1930	8.7	1952	3.0	1974	5.6	1991	6.8	April	4.3	Feb.	4.4
1932	23.6	1954	5.5	1976	7.7	1992	7.5	May	4.4	March	4.2
1934	21.7	1956	4.1	1978	6.1	1993	6.9	June	4.5	April	4.3
1936	16.9	1958	6.8	1980	7.1	1994	6.1	July	4.5	May	4.2
1938	19.0	1960	5.5	1982	9.7	1995	5.6	Aug.	4.5	June	4.3
1940	14.6	1962	5.5	1984	7.5	1996	5.4	Sept.	4.5	July	4.3
1942	4.7	1964	5.2	1986	7.0	1997	4.9	Oct.	4.5		
1944	1.2	1966	3.8	1987	6.2	1998	4.5	Nov.	4.4		
1946	3.9	1968	3.6	1988	5.5	Jan.	4.8	Dec.	4.3		

NOTES: Estimates prior to 1940 are based on sources other than direct enumeration. Data prior to 1948 is for persons age 14 and over. Data beginning in 1948 is for persons age 16 and over. *Source:* U.S. Department of Labor, Bureau of Labor Statistics. Web: stats.bls.gov.

表4

Federal Minimum Wage Rates, 1955–1997

Year	Value of the minimum wage: Current dollars	Value of the minimum wage: Constant (1996) dollars[1]	Year	Value of the minimum wage: Current dollars	Value of the minimum wage: Constant (1996) dollars[1]
1955	$0.75	$4.39	1977	$2.30	$5.95
1956	1.00	5.77	1978	2.65	6.38
1957	1.00	5.58	1979	2.90	6.27
1958	1.00	5.43	1980	3.10	5.90
1959	1.00	5.39	1981	3.35	5.78
1960	1.00	5.30	1982	3.35	5.45
1961	1.15	6.03	1983	3.35	5.28
1962	1.15	5.97	1984	3.35	5.06
1963	1.25	6.41	1985	3.35	4.88
1964	1.25	6.33	1986	3.35	4.80
1965	1.25	6.23	1987	3.35	4.63
1966	1.25	6.05	1988	3.35	4.44
1967	1.40	6.58	1989	3.35	4.24
1968	1.60	7.21	1990	3.80	4.56
1969	1.60	6.84	1991	4.25	4.90
1970	1.60	6.47	1992	4.25	4.75
1971	1.60	6.20	1993	4.25	4.61
1972	1.60	6.01	1994	4.25	4.50
1973	1.60	5.65	1995	4.25	4.38
1974	2.00	6.37	1996	4.75	4.75
1975	2.10	6.12	1997	5.15	5.03
1976	2.30	6.34			

1. Adjusted for inflation using the CPI-U. *Source:* U.S. Employment Standards Admin. Web: www.dol.gov/esa/public/minwage.

表5

Computers in Use, 1985–2000

(in millions)

Country[1]	1985	1988	1989	1991	1992	1993	1994	1995	2000[2]
United States	21.50	40.80	47.60	62.00	68.20	76.50	85.80	96.20	160.50
Japan	2.10	5.10	6.40	9.20	10.80	12.60	14.90	18.30	46.80
Germany	1.90	4.20	5.20	7.30	8.70	10.40	12.30	14.20	29.80
United Kingdom	2.10	4.30	5.20	7.20	8.40	9.60	10.90	12.60	26.00
France	1.30	3.10	4.00	5.70	6.50	7.50	8.60	10.00	21.80
Canada	0.90	2.00	2.50	3.70	4.30	5.20	6.20	7.20	15.30
Italy	0.90	2.10	2.60	3.70	4.30	5.00	5.90	6.70	17.50
Australia	0.34	0.95	1.24	2.10	2.70	3.40	4.00	4.80	10.20
South Korea	0.13	0.28	0.43	1.00	1.40	1.90	2.60	3.50	10.60
Spain	0.20	0.50	0.79	1.44	1.80	2.30	2.90	3.50	8.10
Netherlands	0.32	0.76	1.02	1.65	2.00	2.40	2.80	3.30	7.10
China	0.12	0.28	0.40	0.67	0.92	1.34	2.00	2.90	13.30
Russia	0.10	0.23	0.34	0.65	0.93	1.37	1.90	2.70	9.20
Mexico	0.15	0.37	0.49	0.87	1.21	1.61	2.05	2.60	6.30
Brazil	0.10	0.24	0.31	0.62	0.91	1.27	1.76	2.40	7.80
Worldwide Total	**38.10**	**79.40**	**97.00**	**136.90**	**159.20**	**186.90**	**218.80**	**257.20**	**556.90**

1. List represents the fifteen countries with the most computers. 2. Projected. *Source:* Computer Industry Almanac Inc., Arlington Heights, Ill., 847-718-0423; Web: www.c-i-a.com.

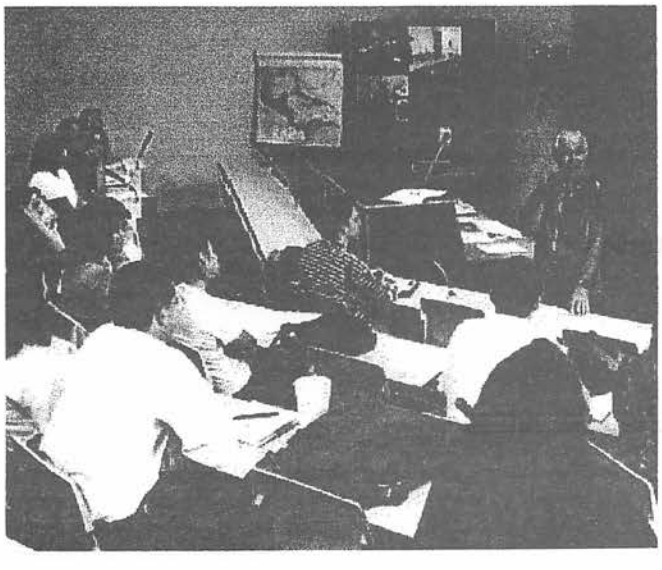
Earn College Credit for What You Know!

This checklist will help you determine if you have potential *college-level* learning from professional training and/or life experiences. Check yes or no to the following questions:	**YES**	**NO**
1. Do you have military service with training listed on a DD214 form? *(submit to Office of Admissions)*		
2. Have you ever attended non-credit courses or seminars?		
3. Do you hold any licenses, professional or artistic awards, publications or certificates?		
4. Have you taken coursework at any professionally accredited colleges?		
5. Have you ever taken an ACT/PEP, CLEPÆ, DANTES, GRE or NLNÆ test? *(submit to Office of Admissions)*		
6. Do you have other professional training or nonaccredited coursework?		
7. Have you developed/created a product of significant professional, commercial, industrial, or aesthetic value? Do you hold a patent?		
8. Have you held a leadership position in a regional, state, or national organization or association?		
9. Can you speak, read and write in a foreign language even though you have not taken college-level courses in the language?		
10. Do you have hobbies/recreation through which you have professional-level developed skills? Example: Arranged music for a special group.		
11. Do you feel you have other areas of college-level learning and knowledge gained from reading, study, community involvement, etc.?		
12. Do you have leadership experience as a volunteer?		
13. Have you lived abroad extensively?		
14. Could you write an essay to a ***college-level*** course description demonstrating that you have had learning experiences equivalent to a college course for which you might petition for credit? Examples of topics:		
• Bereavement and Loss • Psychology of Divorce • The Exceptional Child • Death and Dying • Selected Studies in Asian Cultures • Community Involvement & Economic Development • Training and Development • Small Business Administration • Labor Relations • Advanced Selling • Computer Networks • Project Management • Economic Development • Inventory Control		

If you checked yes to any of these questions, you may have ***college-level*** *learning that can be assessed for credit! Please contact your Academic Counselor or a University of Phoenix representative for information on Assessment of Prior Learning options.*

表6　フェニックス大学カタログより

写真1　北アリゾナ大学相互送受信テレビプログラム



American Higher Education: Non-traditional Academic Programs

Stuart Walker

アメリカ合衆国の高等教育：革新的な教育システム

概要
この論文の目的は、アメリカの大学・短大で提供している革新的なプログラムを調査し、そこから本学の教育システムの中に取り入れることができる制度があるかを検証することである。ボストン郊外の大学・短大31校を調査し、その仕組みを探った。その結果アメリカの高等教育機関の柔軟性、多様性、革新性、そして自己責任というキーワードを発見した。このキーワードは本学が目指す21世紀の地域密着型大学づくりと深く結びつくと考える。

Abstract
The author gathered information about non-traditional academic programs designed to supplement ordinary curricular offerings for study toward a four-year B.A. degree. My primary purpose was to ascertain which innovative programs being used at American colleges/universities might be suitable for adoption by a Japanese college to create a more flexible and attractive system of study .
Appendix A contains a list of all the special programs for which I gathered information at the colleges visited.

Contents

1. Harvard University
--Summer School
--Extension School
--Institute for Learning in Retirement
--Office of Career Services
--Bureau of Study Counsel and Clinical/Development Center
--Office of the Registrar
2. Simmons College
--Academic Support Center
--Office of the Registrar
3. Boston University
--Metropolitan College
--Office of the Registrar
4. Northeastern University
--Department of Cooperative Education
5. Tufts University
--Faculty of Arts and Sciences
--Office of Professional and Continuing Studies
6. Pine Manor College
--Office of the Dean of Students
7. Emerson College
--Office of Admissions
8. The College of New Rochelle-School for New Resources
--Office of the Coordinator

1. Harvard University

Summer School: This is a program for three groups of people: college students, high school juniors and seniors, and non-native speakers. For the first group, there are hundreds of day and evening classes including a complete pre-medical curriculum. For the high school students there is a selective college-level program. For the non-native speakers there is a special 8-week ESL program which costs $5400.
The Summer School also offers a Writing Program for an eight-week course in one of three areas--expository writing, creative writing, and professional writing.
The Summer School has a special staff to help disabled students, and it organizes extra-curricular activities for all students. It also assists with finding accommodations for summer school students. The professors who teach summer school courses receive extra salary for their work.
Extension School: The Extension School was started 90 years ago and offers evening classes to a wide range of people all of whom live in or near Cambridge. The average age of the 13,500 students is 32, but they range from 19-90 years old. Three-fourths of the students already have a B.A. before joining the program. There are 570 courses offered in 50 different fields.
The Extension School offers undergraduate degrees for both an Associate of Arts (A.A.) and Bachelor of Arts (B.A.) as well as graduate degrees. The cost for these degree program courses is $395 per credit. It also offers several graduate certificate programs, including Museum Studies and Publishing and Communication. Interestingly enough, however, only 10% of the 13,500 students in the Extension School are actually candidates for a degree or certificate. The vast majority take courses for personal growth or fulfillment.
Most courses are taught by Harvard faculty and the others are taught by professors from Boston-area colleges and universities. There is also a Career and Academic Resource Center as part of the Extension School which provides free workshops, counseling and support services.
The Extension School also has an Institute for English Language Programs which offers a variety of day and evening courses designed to assist students in achieving the English proficiency required by their jobs or study programs.
Institute for Learning in Retirement: When Harvard opened the HILR in 1977, it was one of the first of its kind--a learning center designed exclusively for people over 60 years old. There are 280 such institutes at colleges throughout the United States today.
HILR offers its 500 members over 50 study groups, and the members publish two journals.
Office of Career Services (Study Abroad): Harvard permits students to study at certain recognized universities abroad and earn up to one full academic year's worth of credits. Study can be done in the student's major field or outside it. Independent study can also qualify for credit. OCS offers counseling, group meetings and an extensive library collection to assist students in their choice of study programs. There are similar programs with certain other American universities. Students can qualify for all of these out-of-residence programs after completing their freshman year on campus at Harvard. Typically, students study abroad in their junior (third) year as an undergraduate.
Bureau of Study Counsel and Clinical/Development Center: The Bureau supports Harvard students toward the full development of their intellectual and emotional potential. It does this through a variety of programs which are offered free to all students:
(a) Academic Services
--Academic Counseling: The Bureau counsels students who are experiencing difficulties with the learning process itself, such as the inability to concentrate, tendency to procrastinate, or exam anxiety.
--Peer Tutoring: This service is available in every subject, but particularly in mathematics, natural sciences and languages (including English as a second language), as a supplement to the assistance provided by the course instructors. Student peer tutors are

undergraduates who have been selected by the Bureau because of their high academic achievement in the courses in which they tutor. They are trained and supervised by the Bureau staff.
--Course in Reading and Learning Strategies: This is a three-week non-credit course that teaches strategies to promote comprehension of scholarly materials, continuing improvement in speed of comprehension, and the development of critical thinking skills.
--Study Skills Materials: The Bureau makes available a variety of materials designed to assist in the development of effective study and learning skills, such as improving concentration, managing time, taking notes, preparing for examinations, and problem-solving in math and science.
(b) Psychological Services
--Personal counseling for students who experience a variety of difficulties due to the strain and pressure of college life.
--Psychotherapy for more serious personality disorders.
(c) Writing Center assists students, both native and non-native speakers, with writing skills.
Office of the Registrar
--Cross-registration: Harvard has a formal relationship with M.I.T. under which students can take a certain number of classes there. There are other universities around the country which are formally recognized by Harvard as places where Harvard students can take courses and transfer the credits to their Harvard record. Harvard students can also take courses in certain graduate faculties of the university. Only students who have completed their freshman year at Harvard are allowed to take cross-registration courses

2. Simmons College (1106 full-time undergraduate women; 245 part-time; 2300 graduate students, both men and women)

Academic Support Center
The ASC assists students with study skills development, time management, test preparation, and academic motivation. The Center organizes study groups to help students apply general learning strategies to the specific content of both introductory and advanced courses. The Center also provides tutors when a student needs individual help in a course.. In addition, writing tutors help students on course papers to strengthen their critical thinking skills and command of written English. ESL Specialists help non-native speakers improve their language skills and adjust to the American academic environment. Academic support is also made available to those students with learning or physical disabilities.
Japanese are the largest non-native group at Simmons (about 15 students). Most Japanese students enrolled there major in business, economics , finance or art. They tend to come from rich families and to be of average ability, motivation and creativity. Simmons does not have a formal ESL program. Japanese students at Simmons sometimes transfer there from Showa Women's University in Tokyo. Such students initially enroll at Showa's branch language school near Boston for their one-semester program. Simmons has a formal relationship with Showa-Boston under which Simmons students act as paid guides/informants for Showa students. Students must achieve a TOEFL score of 550 before entering Simmons, although even students with a score of 600 have difficulty coping with a full course load. Several years ago, when private colleges like Simmons were experiencing financial difficulties, the minimum TOEFL score was reduced to 480, but that change was only temporary.
Office of the Registrar
There is a wide variety of programs at Simmons:
- -Satellite campus: Simmons has one other campus in Westbrook, Maine, which offers a degree program in one field only--nursing..
- -Exchange programs: Simmons engages in an exchange program with three other colleges

in the U.S--Spelman College in Atlanta, Georgia,
Fisk University in Nashville, Tennessee, and Mills College in Oakland, California. Double degree programs are offered in cooperation with Hebrew Union College in Cicinnati, Ohio, and Massachusetts College of Pharmacy and Allied Health Sciences in Boston. A one-semester program is available to juniors at American University in Washington, D.C., to study political science, economics, public affairs, and international relations. This so-called Washington Semester can be found at many American colleges.
- -Major: Simmons offers over 40 different academic majors. A student may elect a single departmental major, or a double major (*e.g.*, English and Biology), or a joint major (a sequence of courses drawn from two separate departments, *e.g.*, math-economics), or an interdepartmental major (an interdisciplinary major involving courses in two or more departments (*e.g.*, East Asian Studies), or a combination of a major and a minor. Finally, Simmons permits a student to create her own individualized major. A student is expected to take between 20 and 40 semester hours in a major field, as determined by the department of the student's choice. A minor consists of at least 20 semester hours in the field of choice.
- -Grading system--Simmons students receive a grade (A-B-C-D-F) for most courses. A grade point average (GPA) of 1.67 (C-) is required to graduate. As at Harvard, students may take 25% of their courses on a pass-fail basis. The records of students who are experiencing academic difficulty are reviewed periodically by a special administrative committee. This includes any student who receives two or more failing grades (F) during a semester. In such cases, the committee will first issue a letter of warning to the student and send a copy to her advisor and to the Academic Support Center. If the student continues to perform unsatisfactorily, she will be put on academic probation, and perhaps eventually expelled. In all cases, the student's parents may be notified.
- -Honors programs: For students who have excelled academically in high school, Simmons offers special scholarships and an interdisciplinary honors seminar course during the freshman year. A few exceptional high school students are permitted to skip some or all of their freshman year. Honors courses after the freshman year, admission to the honor society and graduation with special honors are also available to exceptional students.
- -Homework: Simmons advises its students to spend three hours on homework and preparation for every class hour.
- -Student-College relations: Students serve on faculty and departmental committees.
- -Library: The Simmons Library contains 260,000 volumes and over 2000 periodical subscriptions. The Library is open 9 a.m. to midnight seven days a week and is staffed by both professionals and students.
- -Transfer students: Every year about 100 students are admiited to Simmons after having taken a minimum of nine credits at another college. They can enter during either the September semester or the January semester. In order to qualify for a Simmons degree, a transfer student must spend at least three semesters at Simmons and complete 48 semester hours of credit. In addition, qualified students holding a baccalaureate degree may be admitted to Simmons to study toward a second such degree. They may apply up to 80 credits from the first degree toward the second degree.
- -The Simmons Semester in Boston: This program allows men and women from other colleges and universities to spend one semester enrolled as visiting students at Simmons and living in the Simmons dormitories.
- -Dix Scholars Program: Women over the age of 23 are accepted to study at Simmons with full scholarship, part-time or full-time. These Dix Scholars may want to complete their undergraduate education, or prepare for graduate school, or simply study for personal enrichment. The program was funded by an alumna of Simmons.
- -Financial aid: Simmons grants about 175 scholarships every year from funds provided by alumnae or friends of the college. There are several funds which have been created from contributions made by the members of a class who graduated from Simmons years before (*e.g.*, Class of 1934 Loan Fund; Class of 1950 Scholarship Fund). In addition, students can

apply for federal or state grants or loans. Students can also defray college expenses by working part-time on or off campus. Simmons advises frshmen to work no more than 10 hours a week, and upperclassmen, 15 hours a week.
- -Honorary degrees: Each year at graduation ceremony, Simmons confers an honorary degree on an outstanding person The wife of Dr. Martin Luther King, Jr., Coretta Scott King, and Maya Angelou, the poet and writer, are examples of people who have received honorary degrees from Simmons in the recent past.
- -Colleges of the Fenway: Recently Simmons and four other colleges in Boston formed a consortium called the Colleges of the Fenway. The two major purposes of this consortium were (1) to allow students at all five colleges to take courses at any of the colleges, and (2) to consolidate some of the administrative offices, libraries, health facilities and laboratories of the five institutions so that they could serve the combined community more effectively and efficiently. Another member, Wentworth Institute of Technology, is presently experimenting with distance learning on-line courses, delivered entirely over the Internet. Students enrolled in such courses read the professor's lectures, view pictures, ask questions, turn in homework, do research and communicate with each other through the medium of a "chat room", all on the Web using special software provided by the college. Distance learning on-line is the most important new educational concept in the United States. A lot of controversy surrounds the aggressive marketing of the University of Phoenix (Arizona) which is attemping to establish satellite campuses in every state in the US to offer on-line courses leading to a degree. This concept, of course, takes business away from local educational institutions, and, therefore, many are opposed to the University of Phoenix.
- -Miscellaneous programs: Simmons offers two sessions of summer school, night and weekend courses, and a special four-week summer writing course for incoming freshmen whose writing ability is below average.

3. Boston University

Metropolitan College
Metropolitan College (MET), which has a total of 3000 students, is the name of BU's division of extension studies. It is different from the Harvard Extension School in that it is a separately accredited educational institution which grants its own undergraduate and graduate degrees. It has three satellite campuses throughout the State of Massachusetts, and offers degree programs on the campuses of three universities abroad.
MET conducts evening, weekend and summer session course. Evening courses are three hours long, once a week. Both degree- and non-degree students are enrolled at MET. It also has study programs for people who wish to obtain special certificates in fields such as financial planning, computer software engineering, etc. High school students can take MET courses during the summer between their junior and senior years. The faculty consists of professors from BU, other Boston-area colleges and universities, and professionals. Cross-registration with other divisions of BU is very flexible. (See Picture 1 in Appendix A)

Office of the Registrar
Every BU undergraduate, just like almost all American college students, has to satisfy the General Education requirement. However, BU offers a special Core Curriculum program to students who choose to follow it in fulfillment of the General Education requirement.
The Core Curriculum is an innovative program of eight historically based, integrative courses providing an in-depth study of classic works (Western and non-Western) in the humanities, important ideas in the natural sciences, and the concerns and theoretical bases of the social sciences. Core courses emphasize careful, analytical reading of great works in small, faculty-led seminars, an understanding of the most important scientific ideas of our times, the development of logical and critical thinking, and clarity and precision in written

and oral expression. Core students pursue a coherent interdisciplinary approach to great works of literature, art and music, and social, religious, scientific and philosophical thought. Each core course consists of small discussion seminar groups combined with a series of lectures given by some of BU's most outstanding scholars and professors.

4. Northeastern University

Department of Cooperative Education
Northeastern is the internationally recognized leader in Cooperative Education. Cooperative Education. is an educational program in which the student alternates periods of academic study on campus with similar periods of paid employment in positions related to the student's academic, career or personal interests. Students must first complete their freshman year satisfying general education requirements. It then takes four more years to earn an undergraduate degree. During these latter four years, students are grouped into two divisions and assigned a Coordinator (advisor). While one division is "on co-op" (working full-time), the other division's members are studying full-time.
The Department of Cooperative Education takes almost full responsibility for helping to place each student in an appropriate job, and it keeps in close contact with each student's boss at the workplace to monitor his/her performance. Grades of S (satisfactory) U (unsatisfactory) and X (incomplete) are assigned for work performance. Although grades for work are not added to the academic credit hours required for graduation, the student's transcript reflects the grades for each co-op term. Most of the jobs are in the Boston area, but students may take work positions anywhere in the United States and even abroad. About 50% of the graduates of the Department of Cooperative Education take full-time jobs with their co-op employer.

5. Tufts University (4500 undergraduates, 3600 graduate students)

Faculty of Arts and Sciences
Apart from the usual array of special programs offered by most of the colleges and universities I visited (See Picture 2 in Appendix A), Tufts has two innovative programs in which juniors and seniors, in collaboration with faculty members, teach undergraduate courses:
(1) The Experimental College is Tuft's nationally recognized program which offers more than 100 non-traditional, full-credit courses taught by students, faculty and outside lecturers. Tufts undergraduates take an average of two Experimental College courses during their four years.
(2) Explorations and Perspectives are two other programs administered by the Experimental College. These two programs use teams of upper-level students to teach freshman seminars as well as to act as the freshmen's advisors. They achieve a participatory academic setting and create a sense of community among the members of each seminar.

Another interesting aspect of undergraduate life at Tufts is student participation in university governance. The student body has a Senate which is a broad-based government for student affairs. The Senate elects or appoints students to 14 different student-faculty committees, covering all aspects of the university, and to five trustee committees. Therefore, undergraduates are at the heart of the university's decision-making apparatus.
Office of Professional and Continuing Studies
Tufts offers a variety of degree, non-degree and certificate programs with day, evening and weekend classes. It also has a special program leading to a B.A./B.S. called Resumed Education for Adult Learners for adults over 25 years of age.
A Tufts Certificate Program consists of a coherent set of 4-5 advanced courses in an

emerging or rapidly evolving field. A Certificate Program represents approximately one-half of a Master's degree program, and is usually more practice-oriented. In order to accommodate working professionals' schedules, most certificate courses are offered in the late afternoon or evening.. Examples of Tufts Certificate Programs are Biotechnology Engineering, Community Environmental Studies, Management of Community Organizations, and Museum Studies.
There is also a Center for Excellence in Teaching which offers teachers and educational administrators undergraduate and graduate courses at reduced tuition.

6. Pine Manor College (280 undergraduates; 20 Master's degree students; women only)

Office of the Dean of Students
Pine Manor is very small, and yet it offers a wide range of programs. It has 25 full-time professors for its 300 students, and 41 part-time teachers.
Pine Minor offers remedial programs (including ESL) for incoming freshwomen; services for students with learning disabilities; advanced placement for high school students with distinguished academic records; accelerated degree programs for students who wish to obtain an undergraduate degree in less than four years; individualized majors; honors society for students with exceptional academic achievement; summer session for credit; a part-time degree program with evening and weekend classes; adult and continuing education programs; internships; cross-registration at 12 other Boston-area colleges.
Pine Manor offers 31 different academic majors for undergraduates; a master's degree program of study is available only in education.
There is a student-run newspaper and radio station.

7. Emerson College (2550 undergraduates, 900 graduate students)

Office of Admissions
Emerson offers 1500 internships annually to its 3450 students, throughout the United States as well as overseas. Emerson feels that their internship programs stimulate their students and deepen their understanding of their specific field of study.

8. The College of New Rochelle-School for New Resources (4500 adult undergraduate students)--New York

Office of the Coordinator
The College of New Rochelle is a liberal arts college which has established an innovative program for poverty-level adult learners on seven satellite campuses in New York State and New York City. The tuition is less than half that of a typical college extension course. The 500 part-time teachers work for relatively low wages. Students can pay their tuition on a delayed basis. This is an example of American college education reaching down to the lowest level of society in an attempt to offer even the poorest adults the opportunity to raise themselves up to a higher level of aspiration and ability. The College offers individual tutorial for students with special problems such as writing.

Conclusion
The keywords in American higher education are flexibility, innovation , variety and individual responsibility. Every college and university I visited allow students great leeway in designing their course of study toward their degree or individual goal. At the same time, the institutions are able to maintain a high level of quality in their teaching and their resources. Students' motivation remains high due to the variety of stimulating programs

available to them and the respect shown them by the teachers and administration. The other side of the coin is that the students must take individual responsibility for designing the course of study which best suits their needs and then doing the coursework and homework to achieve satisfactory completion of their courses.

Whereas traditional American higher education remains as healthy as always, there is a new dynamism apparent in education for adult learners. Harvard, whose Extension School opened in 1909, was the first institution to serve the adult learner on a wide scale. But in the past 25 years practically every college and university in the United States, even ones as small as Pine Manor College with only 300 students, have begun to offer evening, weekend and summer classes to the adult community. Conversely, many institutions are also reaching out to high school junior and seniors, offering classes to them in order to stimulate them and prepare them for their college experience.

American colleges continue to offer a wide variety of overseas experiences for their undergraduates. Students' international knowledge and understanding have increased at places like Tufts University, where almost 40% of the undergraduates spend one semester or an entire year at an overseas campus. In addition, the number of foreign students studying in regular degree programs or in ESL programs at American colleges and universities has grown exponentially since the 1970's. The presence of such a large number of foreign students on American campuses adds to the international experiences and understanding of everyone.

There is a potential danger in the United States that higher education will be inaccessible for many poor and middle class students because of the high tuition costs, especially at private colleges and universities. This problem is partially mitigated by the impressive range of scholarships, grants and loans offered by the colleges themselves as well as by the federal and state governments. In addition, American colleges and universities made a big effort to offer work opportunities on campus for any student in financial need. This means that the libraries, computer labs, cafeterias, administrative offices and cleaning services on every campus are largely staffed by students. This system not only helps the working students to pay their college expenses, but it also creates a feeling among all students that this is their campus and it is their responsibility to take care that it remains clean, safe, efficient and user-friendly. Although I did not visit any public educational institutions in the Boston area, it is important to note that most states in the U.S. offer free or low cost higher education, especially at two-year colleges, for all state residents.

What all this means is that colleges and universities in the United States are using their facilities and human resources to the fullest and operating at a very high level of efficiency. The result is that the great majority of Americans have been drawn into the realm of higher education with obvious benefits for the society as a whole.

Appendix A

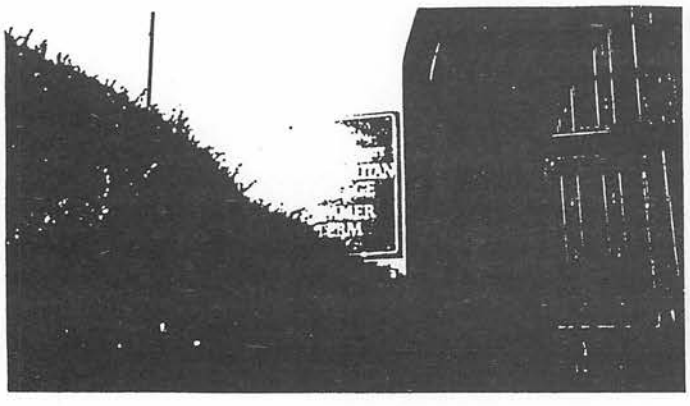
Topics of research

1. Assisting students
remedial programs
ESL programs
writing center
counseling center
tutorial program, including peer tutorial
study skills center
learning disabilities center
computer instruction service
advisor system, including faculty and peer advisor

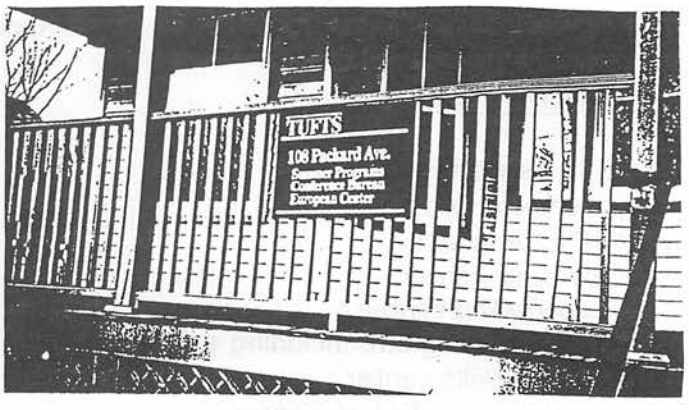
2. courses outside basic undergraduate degree program
summer school
night school
distance learning
extension courses
correspondence courses
Internet-based courses
auditing
study abroad
internship

3. procedural matters
cross-registration with other departments/other universities
joint-major

4. miscellaneous
satellite campus
teaching assistantship
special student status
relations with high schools
student jobs on campus
student organizations, especially newspaper and radio station
role of students in decision-making and policy-making at the college
library schedule and staffing
sister-school relationships in the U.S./abroad



Picture 1: Boston University



Picture 2: Tufts University

BIBLIOGRAPHY

Peterson's Guide to Four-Year Colleges 1998
Harvard University Catalogs for 1999:
--Secondary School Program
--Secondary School English Language Program
--Institute for Learning in Retirement
--Extension School
--Alumni Bulletin
--Handbook for Students
Boston University Catalogs for 1999
--Points of View
--Summer School
--Metropolitan College Bulletin
--Metropolitan College Certificate Programs
Simmons College Catalogs for 1999
--Course Catalog
--Academic Support Center
--Services for Students with Disabilities
Wheelock College Catalogs for 1999
--Undergraduate Catalog
--Undergraduate Admissions
--Financing Your Education
--Donations
Colleges of the Fenway Catalogs for 1999
--Cross Registration
--Introduction
--Newsletter
Tufts University Catalogs for 1999
--Professional and Continuing Studies
--Programs Abroad
--Guidelines for Study Abroad
--Bulletin
--Guide for Visitors
--The Tufts Daily Newspaper
College of New Rochelle Catalogs for 1999
--General Catalog
--Newspaper
Information from Internet sites for the following additional colleges: and universities (http://www. collegename/edu):
MIT, Brandeis, Wellesley, Boston College, Pine Manor, Northeastern, Emerson
Pamphlets published by Channing L. Bete Co., South Deerfield, MA. and distributed free on all college campuses:
--How To Improve Your Listening Skills
--It's Never Too Late For Adult Learners
--Successful Studying
--How To Beat Test Anxiety
--You Can Survive Your Freshman Year
--Manage Stress For College Success

Ⅲ　アメリカ高等教育機関におけるStudent Services について

Student Services in American Higher Education

横山　京子

はじめに

近年、高校卒業者数の減少と、それに伴う進学率の高まりで、大学はユニバーサル化の時代を迎え、いまや教育改革がどこでも叫ばれている。また、学生の多様化に伴い、カリキュラムや講義内容の充実、教授方法の改善、学生への対応の工夫が求められている。日本より早くこのユニバーサル化を迎えたアメリカ合衆国の大学がたどってきた道を知ることは、日本の大学教育にもさまざまな提案をもたらすのではないかと考え、アメリカの大学を訪問し、特に学生サービス（student services）について調査を行った。この研究では、アメリカの高等教育機関で、どのように学生サービスの充実がはかられているか、そのプログラムの内容、運営方法、また問題点を検証し、システム化されたアメリカの取り組みから、日本の大学が学ぶべきものは何か探る。

1　学生サービス(student services)の定義

この報告では、学生に関わるプログラムや活動、サービス全般を学生サービス(student services)と定義し報告するが、アメリカの中でも、大学によって、university services(大学サービス)とされたり, counseling service（カウンセリングサービス)、students activities（学生活動）などのように細分化された名称で呼ばれている場合も多い。日本の中では、学生に対しての進路修学、対人関係、心身健康、学生生活などの問題が扱われる「学生相談」が一般的である。『現代学校教育大事典』(1993）によると、学生相談には援助活動、教育活動、コミュニティ活動、研究活動などが含まれる。

The Encyclopedia Of Higher Education (1992)には、下記のサービスが student affairs program and service（学生関連プログラムとサービス）の例として説明されている。

(1)Admissions(2)Orientation(3)Registrars(4)Financial Aid(5)Housing(6)Discipline
(7)Health Services(8)Extracurricular Activities(9)College and University Unions (10)Career Development and Placement (11) Foreign students Counseling

2　日本における高等教育研究の歴史

天野(1997)は日本の高等教育研究の歴史をまとめる中で、「アメリカの社会学者マーチン・トロウのエリートからマスへ、さらにはユニバーサルへの段階移行という『高等教育の構造＝歴史理論』によれば（Ｔｒｏｗ訳書 1976)、同年齢人口比でみた就学率の上昇に象徴される高等教育の量的拡大は、それが一定の水準をこえるとき、高等教育の構造的な変革をもたらさずにはおかない。1960 年の 12%から 65 年 17%、70 年 24%、75 年 38%と大学・短大就学率が急激な上昇をとげたこの時期はまさに、わが国の高等教育のトロウのいうエリートからマスへの段階移行期であり、学生たちの異議申立ては、大学の伝統的な管理運営の構造や課程だけでなく、教員中心、研究重視の『エリート型』の大学のあり方そのものにむけられていたのである。」と日本の大学の変革について述べ、高等教育の本格的な研究が始まったのは 1970 年からとしている。また、わが国の高等教育研究の制度化は、アメリカの強い影響抜きに考えることはできないと指摘している。さらに教育社会学の紀要「教育社会学研究」では 1971 年と 1989 年の 2 度に渡り、高等教育研究文献のレビューを行っており、文献の整理と分析の枠組みまたその中のキーワードとしての分類項目の違いから、たとえば 70 年代の、「大衆化」「自治」「学生運動」「私学問題」などは姿を消し、代わって「カリキュラム」「教授方法」「大学評価」「高等教育財団」「国際化」などが現れていると指摘した。そこでは約 20 年間の高等教育自体の構造変動が明らかになっていると述べている。

3 アメリカの大学改革

『アメリカの大学・カレッジ』（E．L．ボイヤー著・喜多村他訳　1997）は 1987 年出された *College* の訳書改訂版として出版されたが、1980 年代のアメリカに大学改革をもたらすきっかけとなった報告書とされている。その中で日本の大学が現在抱えているさまざまな問題についてすでに討論されており、日本の大学改革におけるいくつかの問題解決の手がかりとなるだろう。

この報告書はアメリカ合衆国挙げての教育改革の中、1984 年に 16 人の経験有るオブザーバー（観察者）＝リポーター（報告者）を 29 校の大学に送り、学校訪問調査を行った結果をまとめたものである。大学の構造や制度が学生の生活にどのような影響を及ぼしているのかという問題に取り組み、各大学の教育において優れた点や問題点を明らかにし、大学を活性化させ、学生により良いサービスを与えることを目指し、調査研究が進められた。この報告では多くの大学が持つ 8 つの問題点が挙げられている。1）高校から大学への進学問題　2）教育目標とカリキュラム　3）教授団がまず優先するべき義務、　4）教授と学習の条件　5）大学生活の質　6）大学の運営管理　7）学業成績の評価　8）大学と外部世界とのつながりである。

学生サービスについて考えるにあたり、この報告書の内容は重要な示唆を与えおり、特に下記の項目について、リポーターの警告に耳を傾ける必要性がある。

（1）学生募集に関すること

アメリカの大学では学生募集に熱心であり、大学パンフレットの作成や、キャンパスツアーの開催を行っている。しかし大学の表面的な宣伝にとどまり、大学での授業内容や教員の紹介など学問での優れた点についてあまり説明がなされていないと指摘している。また、この調査団は以下のようにも警告している。

> われわれは大学の学生募集に関するこの調査の結果、高校から大学への進学課程をもっと円滑なものにしなければならないと強く確信するに至った。大学は、進学希望者の役立つように、必要な情報を提供しなければならないし、とりわけ、その説明は正直で大学の募集過程で、大部分の大学は倫理的にふるまっている。しかし、マーケッティングがますます強化され、目的と手段が取りちがえられてしまう恐れも出てきていると憂慮している。(E.L.ボイヤーｐ４４)

縮小する大学市場の強い影響で「大学のもつ」堅実さを破壊し、親や生徒たちが大学に不信を抱くようになるのではないかと警告し、高校から大学への道筋をはっきり示すべきだと結論付けている。

（2）オリエンテーションの必要性

報告では、オリエンテーションの必要性を強く示しており、すべての大学に、第一学年を通した総合的なカウンセリングと相談のプログラムを計画するように要請している。そして教員の職務の一部に相談活動が位置される、又は、時期に応じて教員が援助の手を差し延べるなど、学習面の重点と相談活動が緊密に結びついていることが重要であるとしている。さらに、大学院生や先輩学生が相談相手として適当なこともあると提案している。相談技能の向上のために研修もスケジュール化するべきであり、大学は報酬と制裁によって、相談活動が大学の中で高いプライオリティを占めること閉めるべきであるとしている。

（3）基本的言語能力の養成

学部課程教育で重要なことは基本的な「読み・書き」の能力、つまり言語能力が第一の必要条件であると指摘されている。この報告のなかでの提案は全学生が 1 年生時に、読み書きの学力検査をうけるべきであり、大学で必要な言語能力を備えていない学生は、まず集中講座などのコースに配属されべきであるとしている。その科目は卒業要件に入る科目ではないが、大学で学習を進める中で必要な要件として考えられべきであるとしている。また、大学在籍中に必要に応じて言語能力を養成する支援をするべきであるとしている。

（4）教員の義務

教員の義務について、多くの教員は研究者として、教育者としてのバランスで悩んでいると報告している。アメリカの高等教育では優秀な研究者、研究業績が教員を評価する大きな材料となってきたことは事実であるが、「すべての研究型大学において、教えることも研究と同じように高く評価され、優れた教育が終身在職権の獲得や昇進のための同等の評価を持った基準とされることを求めたい。」と報告している。「優秀研究教授」の表彰は良くされているが、「優秀教育教授」も表彰されるべきであると提案している。研究型大学、教養型大学で、研究と教育の割合は違ってくるものであるが、十分に柔軟性があるべきであり、それぞれの教員は学識を持った一流の学者でなくてはならなく、そのための研修制度や７，８年おきのサバティカル休暇制度は教員の活性化のために必要であり、新しいアイディアを実施し、教授法を改善するために利用できる基金も必要であるとしている。教員の間の連携や、学科単位でのリーダーシップも必要であると述べている。

非常勤の教員については大学にとって経済的に利益があり、特殊な専門分野について知識を与えるなどの

利点があるが、非常勤は大学の仕組みを知らない、学生に授業以外で十分な時間を割かないなど、様々な問題点がある。専任教員と非常勤教員の割合は２０％を超えてはならず、かつ非常勤教員を雇う場合にも、教育上、正当化されるものでなければならないとしている。すべての教員は授業の内容や方法を改善し学生が学ぶ環境を整えるべきだと指摘している。

（５）学習資源の充実

学習環境の整備を唱え、図書館の質的向上と学生の利用の拡大を図ることを重要だとしている。また、コンピュータの発展に伴いコンピュータの導入とその可能性を述べているが、同時に、「コンピュータの普及は、想像を広げると同時にそれを制限もする。科学技術を利用する際に、学生は、ちょうど、原始時代に道具が歴史を変えたように、発明によっていかに社会が変化するかを理解する必要がある。思想よりもデータを信頼し、研究者が情報と知識を取り違えるようになれば危険である。学生に新しい知識の利用法を教えるだけでなく、それをどんな場合になぜ利用するのかを考えさせることが必要である。そのためには、人間同士の継続的な交流を必要とするのである。」（E.L.ボイヤーｐ１８７）とし、価値判断や知恵をあたえることこそ、学部教育の使命であり、学生が自分の生活を広い視野から正しく認識し、善と悪とを、見分けるための場に教室が必要なのである。そのために、コンピュータではなく、偉大な教師の必要性も強調している。

（６）学生生活の質の向上

学生生活の質が学生の満足度に大いに影響し、大学側も学生生活の質の向上のために積極的に関わっていくべきであると報告している。「学部課程の経験がもたらす効果の大小は、大学生活の質と関係しているというのがわれわれの結論である。教育の効果は学生が大学ですごす時間や、さらに諸活動への学生の参加の程度にも直接に関係する。アレキサンダー・アスティンが、自分の調査を要約して述べているところによれば、いかなるタイプであれ課外活動に参加すること、優等コースにはいること、そして学部課程の研究プロジェクトを行うことが、学生の就学の持続に最も影響を与える要素である。参加する学生は在学し続けるといっても誇張ではない。」（E.L.ボイヤーｐ２０６）と述べ、学生生活の質を向上させるために、スポーツプログラムや健康プログラム、学生の自治活動など、課外活動の充実を提示している。また、コンサートやさまざまなイベントを通して大学全体のまとまりをもたらすようなの行事を行い、伝統を作り出すことが連帯感を生み共同体を育てるとしている。

アメリカの大学では多くの学生がキャンパス寮に住み、学生の飲酒、麻薬使用、性的な問題などを抱えているが、多くの学生は何らかの規制が必要としていると報告している。学生寮が学習の場であり、社交の場であるが、その環境を整備し、学生としてふさわしい行動を取るように教育することも大学の使命である。また、通学生は多くの場合、大学に帰属意識が少ないので、それらの学生を大学の中に積極的にかかわらせるようにすることも大切であると書かれている。

（７）経済的障害の除去

舘（１９９７）は『大学改革　日本とアメリカ』の中で、日本のユニバーサル化政策は「必要な学習の機会の用意」はするが、「就学に対する経済的な障害の除去」については積極な対策をしていないと指摘している。アメリカの場合は、学生の経済的な問題についていくつかの手立てがされている。舘（1997）によると、経済的な援助は連邦政府、州政府、民間団体、そして個々の大学と重層化されている。援助の種類も給付、貸与、給与、さらにその組み合わせのパッケージと様々である。また、援助は学生の家庭の経済状況によるニード型のものと、特別な能力を持つ者に高い教育を受けることを可能にするメリット型のものがある。その他、キャンパス・ワーク・スタディや学生ローンのプログラムがあり、経済的な問題への意識が高いと述べられている。

４ アメリカ高等教育機関における学生サービスについて調査報告

調査目的：アメリカの大学、短大における Student Services についての調査を行う。特に学生の学習を支援するプログラム、コンピュータラボの見学、資料収集を行う。

調査日程：１９９９年３月

調査地：アメリカ合衆国　オレゴン州、ニューヨーク州

1. George Fox University（ポートランド市から約３０キロ離れた小さな町に位置する私立大学　学生数約 1600 人）
2. The University of Portland （ ポートランド市内の私立大学　学生数約 2250 人）
3. Western Oregon University （州立大学　学生数約 4000 人）

4. New York University （有名私立大学　学生数約１万7,600人）
5. Portland Community College （Sylvania Campus）
（ポートランド市内の２年生コミュニティーカレッジで市内に３つのキャンパスを持つが、最大のキャンパスであるSylvania Campus は年間約２万6,000人の登録学生がいる。）

４．１　アメリカの大学に見られる主な学生サービス

上記５大学を訪問し、多様な学生サービスを見学したが、アメリカの大学に共通する主な学生サービスについて、下記の具体的な例を挙げることができる。

（１）入学に関するサービス
高校生やその両親にむけ、大学について説明する、また、キャンパス見学会と入学説明会を開催する。

（２）オリエンテーションサービス
新入生、編入学生にむけて学生生活全般の説明会を行う。図書館主催の学習施設利用方法の説明。

（３）学生記録
学生の学習をモニターし、成績などの記録を残す。アドバイザーによる学習相談。

（４）経済的支援
様々な形で学生の経済的な支援を行う。アメリカには３つの形式①Grants（奨学金などの給付）②Loan（貸与）③employment（給与）がある。

（５）住宅サービス
大学寮の運営、ホストファミリーの斡旋、アパートなど住宅情報の提供。結婚したカップルのための、また、子供を持つ学生の住宅施設の提供。

（６）医療サービス
学生医療保険の充実、キャンパス内にヘルスセンターを設置、看護婦、医師の常駐。学生の健康づくりを目指す啓蒙活動。専門家によるカウンセリングサービス。

（７）課外活動サービス
スポーツや趣味の集まりなどのクラブ活動やその他の課外活動。女性活動グループ、マイノリティーグループの（またはエスニックグループの）活動支援。.

（８）学生会館・学生のための施設
学生の活動の場所であるクラブ室・カフェテリア・インフォメーションデスク・コンピュータ室・ロッカー・売店（ブックストアー）・図書館・リクリエーションセンターなどの充実。

（９）就職関連サービス
就職についての情報や、就職斡旋などのサービスを行う。また、学生の適性などを検査する。

（１０）留学生センター
留学生の様々な問題に対応するサービス。

４．２　George Fox University

この大学はポートランドから約３０キロ離れた、小さな町に位置するキリスト教系の大学である。小規模でアットホームな大学であるが、大学の独自の特徴を売りにしている。学生のほとんどはキャンパスに住み、キャンパスで勉強以外の活動も行っている。クラスの規模も小さく、教授１人に対して学生１６人の割合であり、学生数は多くても１クラス５０人までである。また、教授や職員が一人一人の学生に丁寧に対応している。それぞれの教員は週に８時間のオフィスアワーを設けている。

今回の訪問にあたっては、電話予約をし、約１時間のキャンパスツアーに参加した。電話での案内もとても親切で詳しい案内をしていただいた。個人の住宅を改造したようなオフィスである入学事務局には、暖炉やソファーがあり、コーヒー、紅茶、クッキーなどが用意されており、人々を暖かく歓迎する雰囲気であった。オフィスで働くスタッフが気軽に声をかけてくる。案内役の学生は演劇を専攻していて、課外の活動では放送部に所属し、自分たちの放送をキャンパスで行っているとのことであった。ツアーでは大学の主な建物、教室、コンピュータ室、学生会館、カフェテリア、売店、図書館、アスレチックルーム、大学寮などを案内してくれた。

この大学では、新入生は２学年を終わるまでキャンパスに住むことが義務づけられている。3，4年生はキ

ャンパス外に住むが、キャンパスにも専用アパートが用意されている。

この大学に入学するとすべての学生はコンピュータを支給される。もちろん費用は学費の中に含まれているが、ラップトップ型、もしくはデスクトップ型のコンピュータを選ぶことができ、大学の寮や、教室、さまざまな場所でネットワークにつなげることができる。担当教員との連絡は e-mail で行われ、宿題の指示、その他の情報の提示、アドバイスなども、e-mail で行われる。また、授業の中でコンピュータネットワークが使われ、ネットワークを利用したクラス討論も盛んである。そのほかにもコンピュータ教室が用意されている。また、「コンピュータヘルプデスク」というものがあり（写真 1)、各学生が持つコンピュータの設定の仕方や、コンピュータに関わる様々な問題に対応してくれる。キャンパス内にはコンピュータ専門店もあり、格安でコンピュータや周辺機器を購入できる。

カリキュラムの中に Field Education（フィールドワーク）が取り入れられており、多くの学生がキャリア中心の Career Oriented Field Education または文化的な Cultural Field Education に参加し、単位を習得している。Career Oriented Field Education は実際に働く経験をとおして、実社会を知ることや、職業観を高めることを目指している、一般企業での研修から大学キャンパス内での仕事まで学生にあった研修が行われる。外国人留学生も一般企業での研修を得る機会が与えられ、大学での学習終了後、アメリカの実社会に適応できるように工夫されている。Cultural Field Education では、ある一定の期間を外国や特別なコミュニティですごし、異文化に触れることが奨励されている。大学の売店で働く学生、キャンパスの植木を消毒するアルバイトをしている学生などなどみな生き生きと働いていたのが印象的であった。この Field Education が必修科目となっている学科も多く、学生時代に実社会に出て、実務経験を積んでいる。

図書館は夜 11 時まで開館されているが、キャンパスには 24 時間空いている学習スペースがある。静かにそして安全に学習する環境が整っている。

印象的なのは、キリスト教の精神に基づいて建設された大学であり、すばらしいチャペル（講堂）があり、学生は週に２回「チャペルの時間」に出席することが義務づけられている。チャペルの時間は宗教的な話だけではなく、大学行事などの連絡、ゲストスピーカーによる講演、学生の情報交換の時間となっている。そこでは、学生生活指導の場であり、学生を勇気づけ励ます場にもなっている。チャペルにはアートギャラリーも併設されていて（写真 2)、定期的に学生の作品や、地元の芸術家の作品を展示している。

この都会から離れた、小規模の大学の良さは、教員と学生の親密な関係であろう。キャンパスでは、教員と学生が親しく声をかけ、欠席の多い学生は担当教員の方から連絡がくるというアットホームな雰囲気のもと、学生は励まされ、大学生活を送っていく。また、多くの学生がキャンパスまたは近くのアパートに暮らし、学生の生活の拠点が大学となっている。

４．３　The University of Portland

この大学はポートランド市内に位置し人気のある私立大学である。ダウンタウンから近いこと、美しい自然に囲まれていることなど、学生が多く集まり、その教育レベルも高い。学生自ら活動している雰囲気が漂っている。また、ポートランド市と言うアメリカの中でも人気の高い町に立てられていることから、州外からも多くの学生を集めている大学である。学生は伝統的な１８才から２２歳のフルタイム学生と、働きながら学び続けるパートタイムの学生の両方からなっている。

大学の Admission Office（入試事務局）で予約を取り、キャンパスツアーに参加したが、キャンパスツアーオフィスで働く人々は大学入学について個人相談にものり、大学のカリキュラム内容まで熟知している専門家と言う印象を与える。実際の学生がキャンパスツアーの案内人となり、キャンパスの設備、施設を案内している。また、大学での学生生活について学生の視点からの話を聞くことが出来た。大学キャンパス内にはキャンパス案内（インフォメーションセンター）が設置されており、アルバイトの学生が丁寧に対応している。キャンパスのいたるところに e-mail をチェックするコンピュータが置かれ、多くの学生が e-mail をチェックしていた。この日、同じキャンパスツアーグループで会った高校生とその母親は、ツアー終了後、実際にカウンセラーと大学進学のことについて話しをしていた。入学前から一人一人の生徒によく対応していると言う印象を得た。

キャンパスツアーの後で、入学説明担当者との話の時間をいただき、大学での学生募集の方法を尋ねた。この大学はポートランドの大学の中でも人気の有る大学で、学生募集にそれほど苦労してはいなく、学生確保に特別な努力をしているという話はなかったが、多くの学生がキャンパス外に住むので、学生がキャンパスで多くの時間を過ごすように、キャンパスでのコンサートやイベントを開催し、クラブ活動にも力を入れ

ているとの説明を受けた。

4．4　Western Oregon University

この大学は州立の大学であり、教育学が強いとされている。教育の実績、教育の質の高さ、教授法の信頼性から、学生を集めている。仕事は細分化され、それぞれの専門家がサービスを行っている。

学生サービスのひとつにアカデミックカウンセリングサービスがあり、全学生は定期的にアドバイザーに会うことになっているが、なかなか会いにくることはなく、3、4年次になってアドバイザーに会う必要性が高くなる。個別のカウンセリングサービスもあり、専門のカウンセラーがいて、必要な学生の問題解決の手助けとなっている。年々カウンセラーの必要性が高くなり、留学生の利用学生も増えている。また、教授が学生をカウンセリングセンターに送る場合もある。

今回の訪問では特にStudent Enrichment Programなど、個々の学生の学習面、さらに精神面を支援するサービスについて話を聞いた。Student Enrichment Programは大学での学習を成功させるための学生支援プログラムであり、学生に学業、就職、学生生活についてアドバイスをするだけでなく、さまざまなオリエンテーション、セミナーを開催している。大学での学習状況をモニターしていくサービスを行っており、学習を成功させることを主な目的としている。プログラムの中には卒業単位となる(1) Becoming a Master student, (2) Critical Thinking (3) Multiculturalism in the Collegiate Experienceの3つのコースも用意されている。このプログラムは州政府の補助を受けているので、プログラムに参加するには、「両親が大学教育を受けていない」、「経済的な援助が必要である」、「身体に障害を持つ」などの一定の資格が必要である。大学での学習についていけないという学生をこのプログラムに登録させるところから始まり、アドバイザーと学生が、スケジュール管理から、大学での履修科目の決定、ノートの取り方からリーディングの進め方、レポートの書き方まで話し合い、大学での学習を進めている。これらの支援プログラムを通して、大学での学習を続けるように学生をサポートしている。

上記のプログラム以外にも一般の学生むけにチューターサービスを行い、ライティングや数学、科学などの分野でアシスタントを得ることができる。

この大学でも新入生は大学のキャンパスに住むことに義務づけられているが、週末はそれぞれ帰省し、多くの学生はなかなか大学に寄り付かないのが問題のひとつとなっている。

4．5　New York University

この大学は人気の高い私立大学であり、学生にとっては学費も生活費も非常に高い。しかし、留学生を含め各地から学生を得ている。ほとんどの学生は勤勉で意欲的であり、学習面に問題がある学生は少ないようである。もちろん学習を支援する体制は良くできていて、新入生オリエンテーションや定期的なセミナーを開いている。また、大学のテレビ放送を通じて、セミナーやイベントの紹介を行っている。

今回は特に図書館を訪問し、図書館設備と語学ラボを見学した。語学ラボではオーディオ、レコード、ビデオとそれぞれ専用のコーナーがあり、授業の一部として活用される場合と、語学担当教員の指示で自学自習する場合がある。全学生のために、語学学習教材が用意され、語学ラボの受付カウンターで教材の貸し出しが行われる。操作は基本的にはスタッフが行う。

図書館ではラップトップのコンピュータを学生に貸し出し、図書館のどこでも学習ができ、また、ネットワークに接続できるように整備されていた。また、専門の図書館司書が常駐し、図書館利用際の様々な質問に答えるサービスを行っている。多くの常勤のスタッフが活躍しているが、各セクションにワークスタディの学生もいる。特に、障害者へのサービスも行き届いており、本の検索、貸し出し手続き、コピーサービス、朗読やノート作成のサービスまで援助が得られる。

この大学に限らずニューヨークの大学やコミュニティティカレッジではセキュリティ体制が整っていた。大学の建物それぞれにセキュリティガードが常駐している。建物によっては、立ち入る場合、学生証の提示が必要である。担当者の話によると、学生は高い学費を払っている以上,安全も保証されるべきであるとの考え方である。

4．6 Portland Community College

２年制の教育機関と言うことで、ポートランド市内にある Community College を訪問した。Portland Community College は、ポートランド市内に３つのキャンパスを持ち、多くのパートタイムの学生を抱えている。アメリカのほとんどの２年生大学は Community College として州立である。Community College で開かれているの学科の紹介や、科目名と学習内容、スケジュールが書かれたパンフレットは無料で、地域住民に配布される。これは、地域の人々に広く教養や技術を修得する機会を与えているのである。ハイスクールを卒業して４年生の大学へ行く前の準備として一定の期間 Community College で過ごす学生もいれば、特定の資格、技術を取得するため、また、仕事に就くために学習の場に戻る社会人、趣味、教養を広げ社交の場を持つためにクラスをとる人々など様々な学生がいる。学生のニーズに合わせて、Diploma（卒業証書），Degree（学位），Certificate（認定書），Transferable credit（転校時他大学で認可される単位）を習得できる。

今回は、Advising Office(学生相談)の職員と会い、学生サービスについて話を聞くことができた。学生は必要なときにアドバイザーとの面談を予約し、さまざまな問題について、話を聞くことができる。卒業のためにどの科目をとるかという学業上の質問から、職業や進学について、学費や奨学金制度の経済的な質問などさまざまな問題について、話を聞くことができる。就職担当のカウンセラーやそれぞれの専攻学科のカウンセラーなど、専門分野のカウンセラーもいるが、Advising Office のアドバイザーは幅広い問題に対応するシステムになっている。

学生の幅広い年齢層、学習経歴の違い、多様な興味関心から、Community College ではそれぞれのニーズに対応していくように工夫がされている。どんな学生も気軽に教育を受けることができるように、学内の掲示や案内は親切で分かり易い。大学での学習に準備ができていない学生が多いので、数学や英語のチューター制度（家庭教師のように１対１の個人的な学習アシスタントを受ける制度）が確立している。

English as a second language, English as a non-native language. では英語の読み、書き、会話、発音などのチューター（個人的なアシスタント）があり、英語を第一言語としない学生への対応がなされている。そこではテープやプリントなどの学習教材が用意され自学自習の体制も整っている。英語を母語とするが、大学で学ぶ必要な言語能力が備わっていない学生には Basic English Language Skill Center が用意されており、リーディングやライティングのチューター指導を受けることができる。また、英語でのディスカッショングループもある。さらに、数学を履修する学生に Math Center（写真 3） があり、チューターに数学の問題について、個人的に質問ができ、授業での遅れなどを取り戻すことができる。時間は限られているが、数学のほかにも、物理や科学などの科目に対して質問ができるようになっている。これらの学生支援センターには専任のスタッフが 2，3 名しかいないが、数多くの学生がスタッフとして、また、チューターとして活躍している。センターには 4 人がけの丸テーブルが１０から１５用意されていたが、見学時も、ほとんど満員の状態で、多くの学生がこのサービスを受けているとのことであった。

テスティングセンターでは（写真 4)、英語と数学のテストを実施し学力検査を行い、学生はレベルに会った科目、クラスを履修するようになっている。また、科目によってはテストで一定の成績以上をとることが履修の条件になっているものもある。テスティングセンターのサービスのひとつとして、教員の了解のもと、学期中に欠席したテスト、小テストなどをこのセンターで受けることができ、忙しいパートタイムの学生のスケジュールにも対応している。就職などの適性検査も受けることができる。

5 アメリカの高等教育機関のサービスに学ぶ

（1）質の高い講義

学生の確保を目指し、就職に有利なカリキュラム、職業訓練的な科目ばかりに関心が注がれる危険性がある今日、アメリカの高等教育機関で大前提となっている質の高い講義を行い、学生を人間的にそして教養のある人間として育てるという姿勢であるが大切である。

（2）広報活動の充実

アメリカのどの大学でも学生を確保するにあたり、１年を通して入学希望者、その両親に向けてのキャンパス見学会を行っている。各大学にはアドミッションの特別のセクションがあり、大学案内、アカデミックカウンセリング、キャンパスツアーを行っている。そこでは在学生も実際に案内の仕事などを行い、ワークスタディ、または、アルバイトとして活躍している。大学のピーアールが非常に良くなされている。その広報活動は建物や設備の良さを誇張する外観的な誇張宣伝ではなく、具体的にどのような教員が何を教えてい

るのか、学問的に優れている点を進学希望者に誠実にわかりやすく説明することが大切である。

（3）学生をキャンパスに引きつける努力

学習はもちろん様々な活動をキャンパスで行うようにアメリカの各大学は工夫をしている。スポーツや、趣味の活動、コンサートや講演などのイベント、学生や地域の芸術家の作品を展示するギャラリーの設置などが挙げられる。また、学生がキャンパスで働く機会を多く与えている。キャンパスのカフェテリア、売店、図書館、コンピュータラボでのアシスタントなど、さらにキャンパスの清掃や木々の剪定作業まで。実際にお金をもらう学生もいるが、ワークスタディとして、単位を修得する学生もいる。学生がキャンパスで活躍する事で、学生の興味を大学に向けることができる。また実際に学費を払う助けにもなる。学生が多くの時間をキャンパスで過ごし充実感を持つように工夫が必要である。

（4）学習支援サービスの充実

学習に適応できない学生や障害を持つ学生が等しく教育を受け、卒業する事ができるように学習支援センターなどが施設されこと、また、オリエンテーションプログラムの充実やアドバイザー、チューターなどの学生支援スタッフが必要である。アドバイザー制度や専門カウンセラーを設置し、学生ひとりひとりの相談にのることが重要である。アメリカの大学ではカウンセリングのサービスは主に1）コミュニティカレッジ型と2）大学型に分けることができる。

1）コミュニティカレッジ型は多くの場合、ひとつの場所で、学業に関することから、奨学金の問題、仕事について、さらに個人的なカウンセリングまで相談にのる。カウンセラーは面接の予約がいつも詰まっている。よい点：学生の混乱が少ない。総合的に学生の支援になる。悪い点：学生の数が多く忙しくなり専門的な対応ができない。

2）大学型はもっと分業化が進んでおり、ヘルスセンター、カウンセリングセンター、アカデミックアドバイザー、キャリアセンターなど分野別に分けられており、それぞれ専門性が高いが、学生が、どこに行くのか混乱したり、センター間で学生がたらい回しにされたりする事もあり得る。よい点：一人の学生と深く接することができる。専門的な助言ができる。悪い点：学生が混乱する場合が多い。

上記のカウンセリングサービスにはそれぞれ、利点と問題点があるので、その大学の状況に応じて両者のサービスの良い点を併せ持つサービスを確立していく必要性がある。

（5）地域に、そして、すべての人に開かれた大学

舘（1997）によると、アメリカで18歳人口が減少した時期に、大学の規模が拡大したのは、18歳から22歳という伝統的な学生ではなく、成人学生が増加したこと、また、カリキュラムやスケジュールの柔軟性からパートタイマーの学生増えたこと、そして、女性の高進学率であるとしている。このような新しい学生層に魅力ある教育を行うことが大切である。さらに、大学の設備、講座を一般の市民に開放するだけでなく、すべての人に平等にサービスを与える機会を与えることを考えて行かなければならない。特別なサービス、例えば障害者の場合、障害の内容やサポートの必要性を正しく評価し、登録をするなど手続きをし、その後、十分なサービスを与えていくのが妥当であろう。また、一般の人に広く開放する傍ら、大学でのセキュリティ管理も大切であり、学生が安心して学習できる環境を整備することが重要である。

（6）ハード面（設備）だけではなくソフト面（人材）の充実

最新のコンピュータ、快適な図書館など、設備の部分（ハード面）で力を入れているのと同時に、ソフト面である「その設備をどのように使うかということ」、「そこで働くスタッフの十分な確保と育成」がより重要である。アメリカの大学では人材のトレーニングやスタッフミィーティングによるサービスの改善をいつも心がけていることが印象的であった。大学のサービス全体を向上するにあたり、そこで働く十分な人材の確保、その育成も大きな課題である。

6　まとめ

アメリカの高等教育機関ではそれぞれの講義で質の高い、また、一人一人の学生に丁寧に対応する事が基本条件となっている。また、講義以外の場面で学生が自ら学ぶ環境を整備している。体に障害を持つ学生から、学習について行くことができない学生の対応まで、システム化された組織ができあがっている。

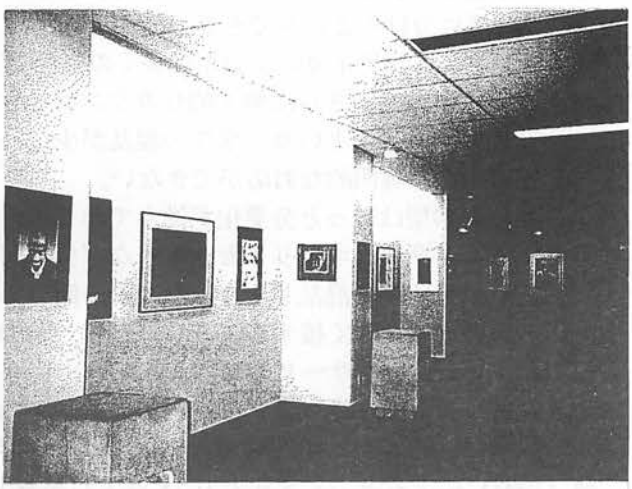
日本の大学でユニバーサル化が進み、様々な学生に対応するには、講義内容を充実させると共にアメリカの大学に見られるさまざまな学生サービスが必要とされる。学生が自学自習できるコンピュータ室や学習支援センターの設置だけではなく、そこで学生を支援する常勤のスタッフが必要である。また、学生をスタッフの良い人材として活用する事で、そこで働く学生の成長につながる。

ユニバーサル化の今、大学全体として何を為すかを選択し、決定する必要性があるが、危険なのは大学が生き残りの為に学問のレベルを下げ、技能訓練ばかりに走ることである。大学の教育のあり方をもう一度考え、教育の理想を下げることなく、学生のニーズに合わせた学生サービスを行っていくことが重要である。

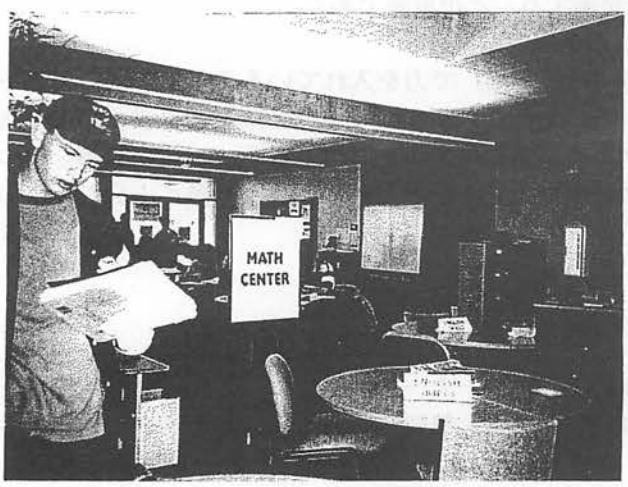
参考資料

（写真１）

（写真２）



（写真３）



（写真４）

参考文献

天野　郁夫　(1998)「日本の高等教育研究　ー回顧と展望ー　」『高等教育研究　第１集　　特集　高騰教育の地平』　ｐ7－ｐ27　玉川大学出版部

奥田　真丈・河野　重男　監修 (1993)『現代学校教育大事典』　株式会社ぎょうせい

細谷　俊夫・奥田　真丈・河野　重男・今野　喜清 (1990)『新教育学大事典』　第一法規出版株式会社

舘　昭(1997)　『大学改革　日本とアメリカ』　玉川大学出版部

Ｅ．Ｌ．ボイヤー著　喜多村和之　舘　昭　伊藤彰浩　訳　(1996)　『アメリカの大学カレッジ』
玉川大学出版部

Burton R. Clark and Guy Neave (1992) The Encyclopedia Of Higher Education Pergamon Press Ltd.

George Fox University Catalog

George Fox University English Language Institute pamphlet

Handbook for students with Disability (Western Oregon University)

New York University Bulletin: College of Arts and Science

New York University Bulletin: School of Continuing and Professional Studies

Portland Community College (Sylavania Campus) Student Handbook

Student Success Center pamphlet

The University of Portland School Catalog

Western Oregon University picture book

Norihito KAWANA, Stuart WALKER and Kyoko YOKOYAMA, Research on the Establishment of Region-based University : Concepts from American Higher Education／*REC TECHNICAL REPORT, No.0038* Mar.2000, Hokkaido Research Center of Environment and Culture,SIU (Sapporo international University).

［執筆者紹介］

○ 川名 典人（かわな のりひと）
札幌国際大学人文・社会学部専任講師　英語教授法

○ スチュアート・ウォーカー（すちゅあーと・うぉーかー）
札幌国際大学人文・社会学部教授　教育方法論の歴史

○ 横山 京子（よこやま　きょうこ）
札幌国際大学短期大学部専任講師　教育学

2000年3月31日 刊行

編　集：北海道環境文化研究センター
発　行：学校法人 札 幌 国 際 大 学　和野内 崇弘

〒004-8602 札幌市清田区清田 4-1-4-1　TEL (011) 881-8844 FAX (011) 885-3370